



お茶の水女子大学学報

平成10年5月1日

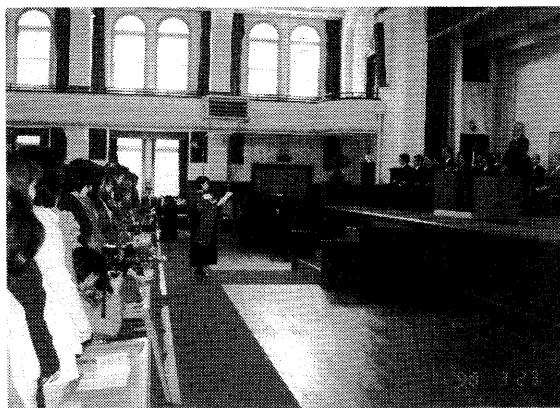
お茶の水女子大学庶務課

目 次

◇ 平成9年度卒業式・学位記授与式	
学長告辞	2
◇ 平成10年度入学式学長告辞	4
◇ 学内規則	7
◎お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則	7
◎お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則	10
◎お茶の水女子大学スペース・コラボレーションシステム事業運営委員会規程	14
◇ 各種委員会委員	16
◇ 学科主任	30
◇ 新任部局長紹介	31
◇ 人事	32
◇ 学事	45
◎平成11年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学（社会人特別選抜を含む）学生募集要項	45
◎学位授与	51
◎卒業式及び学位記授与式	55

◎入学式	55
◇諸報	61
◎家政学部の廃止	61
◎附属図書館に自動入退館システムを導入	62
◎永年勤続者表彰式	63
◎海外渡航	64
◎健康診断	65
◎レクリエーション行事	65
◎計報	66
◇日誌	67

平成9年度卒業式・学位記授与式 学長告辞



本日ここに卒業証書及び修了証書・学位記を授与された総勢831名の学生諸君に、まずは「おめでとう」とお祝いの言葉をさし上げたいと思います。そして、今日の皆さんの喜びを、ご列席の保護者・ご親族の方々、本学名誉教授・ご来賓の方々、さらにはこれまで皆さんの指導に当たって来られた本学の教職員のすべてと、共に分かち合えるのを、私はたいへんうれしく思います。皆さん方の喜びは、とりもなおさずこの講堂に列なる我々全員の喜びであり、誇りでもあるからです。

学部卒業生のほとんどの人々は、4年前の平成6年（1994年）4月11日に本学に入学されました。私の日記によれば、その日は「快晴、春暖（春の暖かい日）」とありますから、絶好の入学日和であったことが分かります。ただ、私はその日学外での公務のために入学式には参加できませんでしたが、おそらく皆さんの希望に満ちた明るい顔がこの講堂に並んでいたことと想像いたします。4年後の今日、昨日までのぐずついた天候も回復して、やや肌寒いながらも全く雨の心配のない卒業式を迎えることができましたが、入学時の希望と夢はどのようになりましたか。この4年間の皆さんの学生生活を、できれば、皆さん一人ひとりに直接尋ねてみたいところです。また、修士課程と博士課程を終

えて学位記を手にされた大学院修了の皆さんには、入学の時期こそ学部生とは相前後しますが、それぞれ所定の課程を終えて目的を達成された今、同じように皆さんにも本学での研究生活がどのようなものであったのか、問い合わせたい思いに駆られています。どうか皆さん、ぜひとも学科・研究室の先生方に、機会を見つけてその答えを伝えておいてください。皆さんの声は、いずれ私の耳にも届くはずですから。これが言わば、私が皆さんに卒業・修了を許可する条件と考えていただいてもかまいません。こんなお願いをするのも、本学の教育をより充実させたいためであり、皆さんにとっても、今日の卒業式・修了式がこれから新たな門出であると同時に、これまでの学園生活を振り返るよい機会で、今后の皆さんの生活設計に大きな意味をもつと考えるからです。

皆さん一人ひとりの個人的な思い出はともかく、皆さんのが学生として在学していた間に、世界では実に多くの事件が起こっています。世界各地の民族的対立による戦争はいまだに継続中で、貧困と飢餓に苦しんでいる人たちが数多くいますし、日本では3年前の阪神大震災、地下鉄サリン事件で、やはりいまだに苦しんでいる人たちが少なくありません。一方、この国の政界・財界・官界の癒着による腐敗の構造は実に根深いものがあり、何処かしこも叩けば埃どころか大きな泥の塊がごろごろ出てくるようになります。また、中学生など低年齢層の恐るべき行為も日々伝えられています。皆さんの方々は幸い大学という別天地で勉学の生活を送ってこられたわけですが、社会の起こった、そして起きたことのあるこれらの事実をはっきりと記憶しなければなりません。目前の21世紀の主人公である貴方がたにこそ、20世紀最後の社会状況をしっかりと記憶して欲しいのです。人類はこれまで、未来のために現在と過去を教訓として進歩してきました。貴方がた若い人たちは人類の未来に責任をもっています。特に、男女が

共同して築く21世紀の社会では、貴方たち女性の自立と創造的な活躍は欠くべからざるものであり、女性の果たす役割はますます増大すると思います。

現在は腐敗と暴力が目に余ると申しましたが、しかし、全く希望がないわけでは決してありません。例えば、阪神大震災の時に多くの若者がボランティアで汗水流したことはよく知られていますし、今年の長野冬季オリンピックでも彼らが活躍しました。若者たちは、実践を通じてボランティアの実際を示すと同時に、その貴さを広く社会に認識させたという点で、二重の意味で社会に貢献しています。皆さんの中にもボランティア活動に参加した人がおられるでしょう。ボランティアはもともと自発的に行う奉仕活動を意味しますが、華々しいニュースになるボランティアの他にも草の根的な活動を社会の片隅で黙々と行っている若者も決して少なくないと思います。このような若者が育ち増えて行けば、我々の未来も決して捨てたものではありません。これが我々の希望です。

ところで、この講堂はご存じのように、徽音堂といいます。皆さんの前に掲げられている「徽音堂」の額は、昭和11年（1936年）11月28日に落成したこの講堂に、その時以来掲げられている額です。命名者は当時の東京女子高等師範学校教授の細田劍堂、筆を取られたのは東伏見宮妃殿下、と本学の記録にあります。「徽音」の言葉は、中国の古典である『詩経』大雅の「思斎」篇に見える「大姒は徽音を嗣ぐ」という言葉にもとづきます。「徽」とは美しい意味、「音」は声、さらには口によって伝えられた徳の意味です。この「思斎」篇は中国の聖人として知られる周の文王の美德の由来をたたえた歌で、冒頭には文王を育てた母親と文王を支えた妃のことがうたわれています。大姒はその文王の妃で、周王朝の創始者武王の母親でした。「大姒は徽音を嗣ぐ」の一句は、妃の大姒がすばらしい徳を受け継いで夫の文王を助けたとい

う意味になります。この賢婦人の鑑として名高い大姒の行いを示すこの言葉が選択された理由は、当時の東京女子高等師範学校の女子学生たちに「良妻賢母たれ」との願いが託されていたからに相違ありません。しかし今、私が皆さんに申し上げたいことは、「良妻賢母たれ」というよりは、まずは人間としての美德を受け継ぎ、社会人としての責任を忘れないで欲しいということです。一口に人間としての美德といってもはなはだ抽象的で如何ようにも解釈できそうですが、『詩経』の「思斎」篇の篇名に関係づけて私流にいえば、「斎」は即ち「端然として莊厳なこと（厳かで正しいこと）」と漢代以来解釈されていますから、つまりは「人間としての尊厳」をさすと言えます。そうであれば、「思斎」（斎を思う）とは「人間としての尊厳」を常に思い、決して忘れないことを意味しますから、大姒が受け継いだ「徽音」も「人間の尊厳性を尊ぶ心」と言い換えることができます。これが私のいう人間としての美德であります。

今世間にはびこる相互不信と身勝手さは、まことに目に余るものがあります。最近のわが国の政・財・官界の汚職や不正行為も少年少女たちの異常な行動も、私には「人間の尊厳性」を見失っているせいだと思わずにはいられません。これを回復して正しい社会秩序を取り戻すことは、容易ではありません。「公務員倫理法」の制定や「こころの教育」などがにわかに呼ばれていますが、病根の根深さは即効薬・特効薬の存在を疑わせます。

先程読み上げられましたように、ここには文教育学部、理学部、生活・家政学部の3学部の卒業生590名、人文科学・理学・家政学3研究科（修士課程）の修了生213名、昨年度から発足した人間文化研究科前期課程（修士課程）の1年次で修了する者2名、人間文化研究科博士課程を修了した課程博士26名の総計831名の人たちがいます。昨年の総数の749名を82名上回る数で、この講堂の収容人員もそろそろ限界か

と思われます。831名の中には、外国人留学生の諸君が学部から博士課程まで含めて、偶然昨年と同じ26名おります。昨年も申し上げたことです、生活習慣の違いや言葉の壁など幾多の困難を乗り越えて今日まで努力した留学生諸君に改めておめでとうと言いたいと思います。

さて、皆さんのは多くはこれから大学を離れて、4月からは一般企業や官公庁、あるいは学校の教師など職業人として働くことになるのでしょうか。大学で学んだことを仕事の中で直接生かせる人、あるいは当面は学んだことと全く関連性のない仕事に就く人など、それぞれ一様ではないと思います。中には就職をせずにすぐに家庭に入る人もいるのではないかと思うか。しかし、たとえどのような道を選択されようと、皆さんが本学で学んだことは決してむだではなかったと何時かは思う時があるはずです。またぜひそうあって欲しいと心から願っています。皆さんを送り出す我々には皆さんの将来に対する一抹の不安と、同時に貴方がたを教育した誇りと自信が交錯していますが、貴方がたがお茶大の卒業生・修了生であることを終生誇りに思えるよう、さらに本学の充実・発展に努力して行けたいと考えています。これからさらに本学の大学院に進んで研究生活を続ける人も含めて、どうか皆さん、「徽音」の2文字を忘れることなく、社会のさまざまの分野で心身ともに健康な社会人として大いに活躍されることを切に希望して、告辞といたします。

平成10年3月23日
お茶の水女子大学長 佐藤 保

平成10年度入学式 学長告辭



新入生の皆さん、並びに保護者・ご親族の方々、今日ここに皆さんをお迎えして、平成10年度の入学式を挙行できますことは、たいへん喜ばしいことあります。私は本学の教職員全員を代表して、新たにお茶の水女子大学に入学された新入生の皆さんを心から歓迎し、「入学おめでとう」とお祝いの言葉を申し上げます。今日は雨降りのあいにくの天候となりましたが、皆さんの心の中は憂鬱な空模様とは逆に、きっと晴れ晴れとしているのではないかと思います。ぜひとも今日の感激をいつまでも忘れずに心に留めておいて欲しいと希望します。

さて、ただ今入学を許可しました今年度の新入生は、学部・大学院を併せて総計923名。この数は、昨年よりも46名多く、これまで本学が受け入れた新入生の数としては最も多い数になります。内訳は3学部の572名、大学院人間文化研究科前期課程（修士課程）の243名、後期課程（博士課程）の108名ですが、この中には学部で3名、大学院で41名の計44名の外国人留学生の人たちが含まれています。今年このように多数の皆さんをお迎えすることになった最大の理由は、現在まだ改組中の人間文化研究科後期課程つまり博士課程の入学者が大幅に増えたことで、その結果、学部生と大学院生の比率は、ほぼ6対4になりました。最近いろいろなとこ

ろで言われていますように、女性の高学歴化、高度な専門研究への関心の高まりがこの数字に如実に表れていると思います。

本学は大学の規模こそ比較的小さな大学ですが、いま申しましたように、学部から大学院の博士課程まで整備された、教育内容の充実している総合大学ですから、学部に入学した皆さんも、かたい意志とたゆまぬ努力さえあれば、将来大学院に進学して専門的なより高度な学問を学ぶことが可能です。一方また、大学院に入学・進学した人たちは、学部あるいは修士課程で学んだそれぞれの分野の知識をより深め、創造的且つ最も先端的な研究に従事しようとして大学院の前・後期の課程に進むことを決意されたに違いありません。願わくば、努力おさおさ怠りなく、初志貫徹してりっぱに修士あるいは博士の学位を取得されますように。

しかしながら、皆さんの中には必ずしも本学への入学の目的がはっきりせず、入学はしたものこれから何を学んだらよいのか迷っている人もいるのではないでしょうか。迷いは主に学部新入生の人たちに多いと思います。一昨年（平成8年）の年末に、本学生生活科学部の4人の先生の共著で『高学歴時代の女性－女子大学からのメッセージ』（有斐閣選書）という書物が出版されました。書物の内容は、タイトルに示されているように女子大学で学ぶ女子学生の意識、日本社会における女子大学の歴史と意義、そして大学を終えた女性の進路、企業と女性、高学歴女性の家族と生活等々、女子大学論、女性論、そしてまたジェンダー論とも言えるたいへん興味深い書物ですが、その中に本学生生活科学部の学生に対するアンケートをもとに女子学生の意識を調査・分析した箇所があります。第1章「女性は大学に何を求めているか」の中の「あなたはなぜ大学にはいったのか」という1節です。そこを見ますと、学生時代をモラトリウム *moratorium* (猶予期間) としてとらえている学生が少なくないことが記されています。

すなわち、「進学に対する目的意識がない場合、それを正当化するのは大学の4年間を、受験に追われた後、社会に出るまでの一種のモラトリウム (猶予期間) とする考え方である。」と述べられています。本書が指摘するように、このような考えは、決して女子学生に限ったことではなく、本学の学生に特に多いわけでもありません。日本の大学ではごく普通に見られる一般的現象といってよいものでしょう。もとよりこれは好ましい現象ではありませんが、高校までの偏差値教育や、ともかく大学だけは出なければという大学大衆化の影響など種々の社会的要因が、このような学生を生み出す原因になっていると思われます。

つまり、大学入学の目的がはっきりせずに迷っている学生は決して特殊な人たちではありませんし、変なコンプレックスに悩むことも、深刻な自己嫌悪に陥ることもありません。同じように迷っている人が少なくないからです。皆さんを迎える我々は、このような学生が確かに存在することを事実として認めはしますが、しかしそうは言っても、目的意識の欠如ないしは不明確さを奨励することはもちろんできません。なぜならば、大学の4年間をただ単に社会に出るための猶予期間として漫然と気楽に過ごすのはあまりにも大きな無駄、社会的な浪費というべきだからです。そのような学生は、結局は学業を中途で止めるか、卒業できたとしてもひどく後悔することが目に見えています。私は、皆さんの先輩の多くが後悔の言葉を語るのを耳にしてきました。何を隠そう、私自身がかつてはそのような悩みをもつ学生の一人でした。そこで私は、迷うのは大いに結構、むしろ学生生活の中で真剣に迷い悩んで、4年の間に一日も早く自分の目的を見定めるよう切に勧めたいと思います。学部の皆さんのが卒業する時にはまちがいなく21世紀になっていて、必ずや女性の社会的進出は広がり、女性の役割が増大しているはずです。と言うよりは、皆さん的一人ひとりが

21世紀の日本あるいは世界の平和な社会を支える義務を負っていますし、男性とともにこれから豊かな社会を築く責任を果たさなければなりません。そのために、皆さんが本学における学生生活を大切に有意義に過ごして欲しいと考えるからです。

皆さん、本学、すなわちお茶の水女子大学の歴史や特色について、すでに受験案内や大学案内等で概略を知っていると思います。それらを十分研究して本学に入学されたのではないでしょうか。ごく簡単に言えば、明治8年（1875）東京女子師範学校が開校して以来、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校、お茶の水女子大学と何度か校名を変えて、今年すでに123年になります。第2次大戦後の昭和24年（1949）にお茶の水女子大学が発足してからでも来年で満50年になります。本学のこの長い歴史と伝統をつくってきたのは、女子教育に確固たる信念と熱い情熱をもった多くの教官と優秀な学生・卒業生たちでした。それらの人々が多くの困難を乗り越え、その時々の社会の要請に応えて、日本における女子の最高学府としての本学の評価を勝ち得てきました。これまでの長い歴史の中で、本学の存亡にかかわる危機を幾度か経験してきましたが、最大の危機は戦後の学制改革に際して東京教育大学（現在の筑波大学の前身）に合併されそうになった時でした。

当時の東京女子高等師範学校の関係者は、一丸となって存続のために心血を注ぎ、かつての教員養成のための師範学校から脱皮して独立の新制大学に生まれ変わるために、衆知を集めて奔走しました。その時、東京女子帝国大学、東京国立女子大学などの名称を考えて存続案を作ったことが記録に残っています。ところが、東京国立女子大学の名称は東京大学や東京女子大学と紛らわしいとの理由で、校名は最終的には今のお茶の水女子大学に落ち着いたのですが、合併や廃校の危機を回避して、国立の女子大学として独自の存在が認められたのも、実はそれ

までの本学の日本の女子教育にはたした大きな実績によるものであり、多くの卒業生たちの社会的に優れた活躍があったればこそでした。

このことから分かるように、大学が存立する最も基本的な要因は、社会的に評価される優秀な学生を育てることができるか否かにかかっています。そして、大学を出た学生の一人ひとりが社会人として立派にその責任をはたし、広く社会の人々から認められることが即ち大学の評価そのものです。その意味から、今日入学された皆さん、すべて今日この日から、伝統ある本学を支え、本学の新たな伝統をつくる一員として参加したことになります。皆さんが真の意味でお茶の水女子大学を支える要員となるよう、本学で学ぶべきことを十分に学び、多くのものを吸収してくださるよう、心から希望します。

最近の日本及び世界の情勢は厳しく、不正や不義が横行する混乱した状態にあることは皆さんよく知っている通りです。こんな時に思い出すのは、「思い邪無し」（『論語』）と言った中国古代の聖人の言葉です。「私の心には邪まな思いがない」という意味で、この言葉が語られた時、中国もまた混乱の時代でした。邪悪と無縁であると、人間なかなか言い切れないものですが、我々はせめてできるだけ邪まな事柄に近づかないようにする生活を心掛けたいものと思います。皆さんが邪悪から遠ざかり、大学で勉学できる幸せを一人一人が自覚しつつ健康に十分注意して、後に悔いることのないよう充実した学生生活を送られるよう切に望んで、入学のお祝の告辞といたします。

平成10年4月9日
お茶の水女子大学長 佐藤 保

学内規則

○平成10年お茶の水女子大学規則第12号

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成10年3月25日

お茶の水女子大学長 佐 藤 保

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則

お茶の水女子大学学則（昭和24年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第2項の表を次のように改める。

学 部	学 科	入 学 定 員	第3年次入学定員	収容定員
文教育学部	人 文 科 学 科	57人	10人	228人
	言 語 文 化 学 科	84人		336人
	人 間 社 会 科 学 科	42人		168人
	芸 術・表 現 行 動 学 科	29人		116人
	学 部 共 通	212人		20人
	計	10人	868人	
理 学 部	数 学 科	20人	10人	80人
	物 理 学 科	20人		80人
	化 学 科	20人		80人
	生 物 学 科	25人		100人
	情 報 科 学 科	40人		160人
	学 部 共 通	125人		20人
	計	10人	520人	
生活科学部	生 活 環 境 学 科	63人	10人	252人
	人 間 生 活 学 科	68人		272人
	学 部 共 通	131人		20人
	計	10人	544人	
合 計		468人	30人	1,932人

第10条第2項中「第23条の2」を「第21条の2」に改める。

第12条の2第3項中「単位については、」を「単位数は、」に、「限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。」を「超えないものとする。」に改める。

第12条の3第1項中「又は短期大学」を「若しくは短期大学（以下「大学等」という。）又は外国の大学等」に、「単位を、」を「単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、」に改め、同条第2項中「文部大臣の認定を受けた技能審査

の合格に係る」を「短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部大臣が別に定める」に改め、同条第3項中「単位については、」を「単位数は、」に改め、「除き、」の次に「本学において修得した単位以外のものについては、」を加え、「限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。」を「超えないものとする。」に改める。

第21条の2を第21条の3とする。

第23条の2中「文教育学部の第3年次編入学特別選抜により入学することができる者は、」を「第2条第2項に定める第3年次入学定員により入学することができる者は、前条の規定にかかわらず、」に改め、同条を第21条の2とする。

第28条第3項及び第4項を次のように改める。

3 休学期間は、通算して定められた修学年限の年数を越えることができない。

同条第4項中「に数えない。」を「には算入しない。」に改め、同条第5項中「出席」を「復学」に改める。

第32条を次のように改める。

第32条 第2条第2項に定める第3年次入学定員によるもの以外で編入学を志願する者があるときは、第29条を準用する。

附則第2項の表を次のように改める。

学 部	学 科	定 員
文教育学部	人 文 科 学 科	2人
	言 語 文 化 学 科	4人
	人 間 社 会 科 学 科	2人
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	2人
	計	10人
生活科学部	生 活 環 境 学 科	3人
	人 間 生 活 学 科	3人
	計	6人

附 則

- この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 改正後の第2条第2項に掲げる表に定める収容定員は、同項の規定にかかわらず、平成10年度から平成12年度までは、次表のとおりとする。

学 部	学 科	平成10年度	平成11年度	平成12年度
文教育学部	人 文 科 学 科	180人	232人	231人
	言 語 文 化 学 科	264人	348人	340人
	人 間 社 会 科 学 科	132人	174人	170人
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	90人	119人	117人
	学部共通(第3年次入学)	10人	20人	20人

	計	676人	898人	878人
理学部	数学科	92人	87人	82人
	物理学科	92人	87人	82人
	化学科	93人	88人	83人
	生物学科	104人	102人	100人
	情報科学科	160人	160人	160人
	学部共通(第3年次入学)	10人	20人	20人
計		551人	544人	527人
生活科学部	生活環境学科	273人	266人	259人
	人間生活学科	296人	288人	280人
	学部共通(第3年次入学)	10人	20人	20人
	計	579人	574人	559人
合 計		1,806人	2,016人	1,964人

○平成10年お茶の水女子大学規則第13号

お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成10年3月25日

お茶の水女子大学長 佐 藤 保

お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則

お茶の水女子大学大学院学則（昭和38年4月24日制定）の一部を次のように改める。

第5条中「人間発達学専攻」を「人間発達科学専攻」に、「人間環境学専攻」を「人間環境科学専攻」に改める。

別表第1（第6条関係）中

博士後期課程	比較文化学専攻	19人	57人
	人間発達学専攻	13人	39人
	人間環境学専攻	9人	27人
	複合領域科学専攻	13人	39人
	計	54人	162人
合 計		250人	544人

を

博士後期課程	比較文化学専攻	19人	57人
	人間発達科学専攻	15人	45人
	人間環境科学専攻	16人	48人
	複合領域科学専攻	13人	39人
	計	63人	189人
合 計		259人	581人

に改める。

別表第2（第9条の3関係）の人間発達学専攻の表を次のように改める。

人間発達科学専攻

講座名	授業科目	単位数	発達社会環境論	比較教育文化史論演習	4
発達基礎	発達基礎論	4	発達社会環境論	教育行財政論演習	4
	発達基礎論演習	4		教育行財政論演習	4
	比較教育思想史論	4		生活者環境論演習	4
	比較教育思想史論演習	4		生活者環境論演習	4
	初期発達論	4		生涯学習論演習	4
	初期発達論演習	4		生涯学習論演習	4
	認知発達論	4		博物館学習論演習	4
	認知発達論演習	4		博物館学習論演習	4
	比較行動発達論	4		家族変容論演習	4
	比較行動発達論演習	4		家族変容論演習	4

論	発達システム論	4	比較家族環境論演習	4
	発達システム論演習	4		4
	人格システム論	4		4
	人格システム論演習	4		4
発達臨床論	心理発達臨床論	4	ジエンダーフィル	4
	心理発達臨床論演習	4		4
	青少年臨床論	4		4
	青少年臨床論演習	4		4
	人間関係論	4		4
	人間関係論演習	4		4
	教育臨床論	4		4
	教育臨床論演習	4		4
	障害臨床論	4		4
	障害臨床論演習	4		4
	保健育臨床論	4		4
	保健育臨床論演習	4		4
	社会福祉論	4		4
	社会福祉論演習	4		4
	教育方法論	4		4
	教育方法論演習	4		4
	教育組織論	4		4
	教育組織論演習	4		4
	比較教育文化史論	4		4

同人間環境学専攻の表を次のように改める。

人間環境科学専攻

講座名	授業科目	単位数					
相関生命科学	分子細胞運動	4	居住都市環境学演習	4	4	4	4
	分子細胞運動演習	4		4	4	4	4
	生体高分子科学	4		4	4	4	4
	生体高分子科学演習	4		4	4	4	4
	代謝制御学	4		4	4	4	4
	代謝制御学演習	4		4	4	4	4
	バイオサイエンス論	4		4	4	4	4
	バイオサイエンス論演習	4		4	4	4	4
	生態環境応答	4		4	4	4	4
	生態環境応答演習	4		4	4	4	4
	生体分子認識学	4		4	4	4	4
	生体分子認識学演習	4		4	4	4	4
	分子遺伝情報	4		4	4	4	4
	分子遺伝情報演習	4		4	4	4	4
	情報分子機能学	4		4	4	4	4
	情報分子機能学演習	4		4	4	4	4
	構造植物科学	4		4	4	4	4
			生体物質化学	4	4	4	4
				4	4	4	4

食 環 境 科 学	構造植物科学演習	4	生物質化学演習	4
	発生機構学習	4	分子科学演習	4
	発生機構学習	4	分子医学演習	4
	細胞・発生生物学	4	環境医学演習	4
	細胞・発生生物学	4	環境御演習	4
	細胞膜機能学習	4	栄養制御学演習	4
	細胞膜機能学習	4	加齢制御学演習	4
	植物生理学	4	感覚分子化學演習	4
	植物生理学	4	嗜好性評価演習	4
	生態環境科学	4	食資源科学演習	4
	分子細胞機能	4	食品機能学演習	4
	分子細胞機能	4	嗜好性設計学演習	4
	生体防御システム	4	食品バイオテクノロジー	4
	生体防御システム	4	食品バイオテクノロジー	4
	中枢神経科学	4	防御システム機能	4
	中枢神経科学	4	防御システム機能	4
	シグナル伝達機構	4	神経科学演習	4
	シグナル伝達機構	4	食品栄養化學演習	4
生活 シス テム 科 学	進化・多様性	4	食品栄養化學演習	4
	進化・多様性	4	食品栄養化學演習	4
	多細胞体形成	4	神経科学演習	4
	多細胞体形成	4	食品栄養化學演習	4
	環境計測科学	4	食品安全性評價學	4
	環境計測科学	4	食品加工科學	4
	生理人類学	4	食品加工科學	4
	生理人類学	4	健康科學	4
	人類年代学	4	健康科學	4
	人体制御機構	4	生物化學演習	4

附 則

- この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 改正前の大学院人間文化研究科人間発達学専攻及び人間環境学専攻は、改正後の第5条の規定にかかわらず、平成10年3月31日に当該専攻に在学する学生が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 改正後の第6条別表第1に掲げる博士後期課程の項及び合計の項に定める収容定員は、同条の規定にかかわらず、平成10年度から平成11年度までは、次表のとおりとする。

専 攻	平成10年度		平成11年度

		収容定員	収容定員
博士後期課程	比較文化学専攻	57人	57人
	人間発達科学専攻	15人	30人
	人間環境科学専攻	16人	32人
	複合領域科学専攻	26人	39人
	計	114人	158人
合 計		506人	550人

○平成10年お茶の水女子大学規則第14号

お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会規程を
次のように定める。

平成10年4月22日

お茶の水女子大学長 佐 藤 保

お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会規程

(設置)

第1条 お茶の水女子大学に、スペース・コラボレーション・システム事業（以下「SCS事業」という。）の円滑な利用等を推進するため、お茶の水女子大学スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 SCS事業の利用計画に関すること
- 二 SCS事業の連絡調整に関すること
- 三 その他SCS事業に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 各学部から選出された教官各2人
- 二 大学院人間文化研究科から選出された教官2人
- 三 附属学校園から選出された教官2人
- 四 庶務課長
- 五 会計課長
- 六 施設課長
- 七 学務課長

2 第1項第1号、第2号及び第3号の委員は、学長が任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号、第2号及び第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員が欠員となつた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、第3条第1項第1号、第2号及び第3号の委員のうちから委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行ふ。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、議長の決す

るところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見又は説明を聞くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務課において処理する。)

附 則

- 1 この規程は、平成10年4月22日から施行する。
- 2 この規程施行後最初に任命される第3条第1項第1号、第2号及び第3号の委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、平成12年3月31日までとする。)

◆各種委員会委員◆

1. () は事務担当課
2. *印は委員長又は議長
3. 任期無記入は官職指定
4. 官職は最新のものを掲載
(編集中の移動についても
できる限り補正をした)

評議会(庶務課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	9. 2. 16~13. 2. 15
文教育学部長	平野由紀子	8. 10. 1~10. 9. 30
理学部長	平野恒夫	10. 4. 1~12. 3. 31
生活科学部長	小林彰夫	8. 10. 1~10. 9. 30
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	9. 4. 1~12. 3. 31
附属図書館長	大口勇次郎	8. 11. 1~10. 10. 31
附属学校部長	石川宏	9. 2. 16~11. 3. 31
文教育学部選出評議員	上野浩道	9. 10. 1~11. 9. 30
	市古夏生	9. 10. 1~11. 9. 30
	山本秀行	9. 10. 1~11. 9. 30
理学部選出評議員	柴田文明	9. 10. 1~11. 9. 30
	松本勲武	9. 10. 1~11. 9. 30
	真島秀行	9. 10. 1~11. 9. 30
生活科学部選出評議員	袖井孝子	10. 4. 1~10. 9. 30
	小池三枝	10. 4. 1~10. 9. 30

生活科学部選出評議員	本間清一	8. 10. 1~10. 9. 30
大学院人間文化研究科選出評議員	三木紀人	9. 4. 1~11. 3. 31
大学院人間文化研究科選出評議員	富永靖徳	9. 4. 1~11. 3. 31

(評議会規則第3条に定める者)

官職等	氏名	任期
学生部長	五十嵐脩	
カリキュラム委員会委員長	耳塚寛明	
ジェンダーリサーチセンター長	原ひろ子	
生活環境研究センター長	倉田忠男	
事務局長	橋本幹夫	

基本計画委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
文教育学部長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	
附属図書館長	大口勇次郎	
附属学校部長	石川宏	

学生部長	五十嵐 僕	
事務局長	橋本幹夫	

自己点検・評価検討委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
文教育学部長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	
文教育学部選出委員	上野浩道	
理学部選出委員	細矢治夫	
生活科学部選出委員	板倉壽郎	
大学院人間文化研究科選出委員	岡崎眸	
	今野美智子	
ジェンダー研究センター長	原ひろ子	
生活環境研究センター長	倉田忠男	
附属図書館長	大口勇次郎	
附属学校部長	石川宏	
学生部長	五十嵐 僕	

事務局長	橋本幹夫	
------	------	--

国際交流委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
文教育学部長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	
文教育学部選出委員	村松賢一	
理学部選出委員	福田豊	
生活科学部選出委員	柴坂寿子	9. 4. 1~11. 3. 31
大学院人間文化研究科選出委員	渡辺ヒサ子	
	西尾道子	
学生部長	五十嵐 僕	
文教育学部助教授	本郷逕子	9. 4. 1~11. 3. 31
事務局長	橋本幹夫	

将来構想検討委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
文教育学部選出委員	鷹野光行	
	岩崎千鶴	8. 10. 1~10. 9. 30

理学部 選出委員	真島秀行	8.10.1~10.9.30
	藤代一成	
生活科学部 選出委員	袖井孝子	9.4.1~11.3.31
	松浦秀治	
大学院人間 文化研究科 選出委員	藤原正彦	9.4.1~11.3.31
	柴田文明	
ジェンダー 研究センター 選出委員	原ひろ子	8.10.1~10.9.30
生活環境 研究センター 選出委員	富永典子	

発明委員会(庶務課)		
官職等	氏名	任期
文教育学 部長	平野由紀子	8.10.1~10.9.30
理学部長	平野恒夫	
生活科学 部長	小林彰夫	8.10.1~10.9.30
文教育学部 選出委員	内藤俊史	
理学部 選出委員	細矢治夫	8.10.1~10.9.30
	福田豊	
生活科学部 選出委員	田辺新一	9.4.1~11.3.31
	倉田忠男	
大学院人間 文化研究科 選出委員	村田容常	9.4.1~11.3.31

組換えDNA実験安全委員会(庶務課)		
官職等	氏名	任期
研究者	室伏きみ子	9.12.16~11.12.15
	倉田忠男	
	根本心一	
	村田容常	
	佐藤光子	
	山本政人	
自然科学		
保健管理 センター所長	永川祐三	9.12.16~11.12.15
理学部 事務長	菊池昭夫	
生活科学部 事務長	薄葉章	
安全主任者	馬場昭次	

共同研究委員会(庶務課)		
官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	9.12.16~11.12.15
文教育学 部長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学 部長	小林彰夫	
大学院 人間文化 研究科長	徳丸吉彦	
ジェンダー 研究 センター長	原ひろ子	

生活環境 研究 センター長	倉田忠男	
事務局長	橋本幹夫	

大学資料委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
図書館長	*大口勇次郎	
文教育学部 選出委員	小風秀雅	
理学部 選出委員	竹尾富貴子	
生活科学部 選出委員	小池三枝	
文教育学部 教授	秋山光文	10. 4. 1~12. 3. 31
文教育学部 教授	鷹野光行	
ジェンダー 研究センター 教授	館かおる	

事務改善研究委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
事務局長	*橋本幹夫	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	
学生課長	森廣美	
入学主幹	棚木紀雄	
文教育学部 事務長	高野佳征	
理学部 事務長	菊池昭夫	

庶務課 課長補佐	川島清人	
会計課 課長補佐	加藤久雄	
施設課 課長補佐	小永井耕一	
学務課 課長補佐	中野公敏	
文教育学部 事務長	高野佳征	
理学部 事務長	菊池昭夫	
生活科学部 事務長	薄葉章	
附属図書館 事務長	木谷利雄	

レクリエーション運営委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
事務局長	*橋本幹夫	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	
学生課長	森廣美	
入学主幹	棚木紀雄	
文教育学部 事務長	高野佳征	
理学部 事務長	菊池昭夫	

生活科学部事務長	薄葉 章
附属図書館事務長	木谷 利雄
庶務課課長補佐	川島 清人
会計課課長補佐	加藤 久雄
施設課課長補佐	小永井 耕一
研究協力室長	古賀 智
大学院事務室長	斎藤 実
附属学校部事務室長	中野 公敏

生活科学部選出委員	板倉 壽郎	10. 4. 1~12. 3. 31
大学院人間文化研究科選出委員	内田 伸子	10. 4. 1~11. 3. 31
事務局長	橋本 幹夫	

生活環境研究センター運営委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
生活環境研究センター長	*倉田 忠男	
文教育学部長	平野 由紀子	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学部長	小林 彰夫	
生活環境研究センター教授	五十嵐 優	
生活環境研究センター教授	大橋 昌子	
生活環境研究センター助教授	富永 典子	
文教育学部選出委員	千歳 壽一	9. 4. 1~11. 3. 31
理学部選出委員	松本 黙武	
生活科学部選出委員	會川 義寛	10. 4. 1~12. 3. 31
	本間 清一	
大学院人間文化研究科選出委員	芦原 坦	8. 4. 1~11. 3. 31
事務局長	橋本 幹夫	

ジェンダー研究センター運営委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
ジェンダーリサーチセンター長	*原 ひろ子	
文教育学部長	平野 由紀子	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学部長	小林 彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸 吉彦	
附属図書館長	大口 勇次郎	
ジェンダーリサーチセンター教授	鎌 かおる	
文教育学部選出委員	天野 正子	10. 4. 1~12. 3. 31
理学部選出委員	松浦 悅子	

共通機器センター運営委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
センター長	平野恒夫	8.12.1~10.11.30
文教育学部選出委員	石口彰	10.4.1~12.3.31
	千歳壽一	9.4.1~11.3.31
理学部選出委員	小林哲幸	10.4.1~12.3.31
	浜谷望	9.4.1~11.3.31
生活科学部選出委員	仲西正	10.4.1~12.3.31
	久保田紀久枝	10.4.1~11.3.31
大学院人間文化研究科選出委員	村田容常	10.4.1~12.3.31
	林正男	9.4.1~11.3.31
生活環境研究センター選出委員	大橋昌子	9.4.1~11.3.31

スペース・コラボレーション・システム事業運営委員会
(庶務課)

官職等	氏名	任期
文教育学部選出委員	石口彰	10.4.22~12.3.31
	清水徹郎	
理学部選出委員	*細矢治夫	10.4.22~12.3.31
	太田隆夫	
生活科学部選出委員	板倉壽郎	10.4.22~12.3.31
	會川義寛	

大学院人間文化研究科選出委員	佐藤浩史	10.4.22~12.3.31
	坂元章	
附属高等学校選出委員	室岡和彦	
附属中学校選出委員	松本純一	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	

予算委員会(会計課)

官職等	氏名	任期
文教育学部長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	
文教育学部選出委員	窪添慶文	10.4.1~11.3.31
	千歳壽一	9.4.1~10.9.30
理学部選出委員	松本勲武	9.4.1~11.3.31
	石和貞男	10.4.1~12.3.31
生活科学部選出委員	駒城素子	10.4.1~12.3.31

生活科学部 選出委員	板倉壽郎	9. 4. 1~11. 3. 31
大学院人間 文化研究科 選出委員	竹尾富貴子	10. 4. 1~11. 3. 31
附 屬 図書館長	楡木満生	10. 4. 1~11. 3. 31
ジェンダー 研究 センター長	*大口勇次郎	
生活環境 研究 センター長	原ひろ子	
事務局長	倉田忠男	
事務局長	橋本幹夫	
学生部長	五十嵐脩	
会計課長	白井清二	

防災委員会(会計課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
文教育学部 長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部 長	小林彰夫	
大学院人間 文化研究科 長	徳丸吉彦	
附 屬 図書館長	大口勇次郎	
附 屬 学校部長	石川宏	
学生部長	五十嵐脩	

保健管理 センター所長	永川祐三	
事務局長	橋本幹夫	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	
学生課長	森廣美	

購入物品機種選定委員会(会計課)

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	杉谷隆	10. 4. 1~12. 3. 31
	水野勲	
理学部 選出委員	浜谷望	
	永野肇	
生活科学部 選出委員	倉田忠男	
	小川昭二郎	
大学院人間 文化研究科 選出委員	大塚惠	9. 4. 1~11. 3. 31

施設計画委員会(施設課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
	平野由紀子	

理学部長	平野恒夫	
生活科学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	
文教育学部選出委員	永原恵三	9.10.1~11.9.30
	杉谷 隆	9.10.1~11.9.30
理学部選出委員	福田 豊	9.4.1~11.3.31
	太田 隆夫	10.4.1~12.3.31
生活科学部選出委員	小池三枝	10.4.1~12.3.31
	田中辰明	10.4.1~12.3.31
大学院人間文化研究科選出委員	富永靖徳	9.4.1~11.3.31
	杉田孝夫	9.4.1~11.3.31
附属図書館長	大口勇次郎	
附属学校部長	石川 宏	
ジェンダー研究センター長	原 ひろ子	
生活環境研究センター長	倉田忠男	
事務局長	橋本幹夫	
学生部長	五十嵐 優	
カリキュラム委員会委員長	耳塚 寛明	

館山施設計画委員会(施設課)

官職等	氏名	任期
理学部長	*平野恒夫	
文教育学部選出委員	本田郁子	10.4.1~12.3.31
	杉山進	9.10.1~11.9.30
理学部選出委員	清本正人	10.4.1~12.3.31
	久保田紀久枝	8.10.1~10.9.30
臨海実験所所長	根本心一	
附属高等学校教頭	早崎捷治	
附属中学校教頭	井上泰次	
附属小学校教頭	星野征男	
附属幼稚園教頭	樹田正子	
学生部長	五十嵐 優	
事務局長	橋本幹夫	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	

廃水管理委員会(施設課)

官職等	氏名	任期
生活環境研究センター選出委員	*富永典子	9.10.1~11.9.30
文教育学部選出委員	杉谷 隆	

理学部 選出委員	松浦 悅子	9.10. 1~11. 9.30	生活科学部 選出委員	久保田 紀久枝	10.11.27~12. 3.31	
	浜谷 望			山本 政人	9. 4. 1~11. 3.31	
	益田 祐一			学生部長	五十嵐 優	
生活科学部 選出委員	久保田 紀久枝	9.10. 1~11. 9.30	文教育学部 選出委員	栗原 尚子	8.12. 1~10.11.30	
	仲西 正			土屋 賢二	9.12. 1~11.11.30	
大学院人間 文化研究科 選出委員	永野 肇	9. 4. 1~11. 3.31	岩崎 千鶴	岩崎 千鶴	9.12. 1~11.11.30	
附属高等学校 選出委員	石井 朋子	9.10. 1~11. 9.30		山下 貴司	8.12. 1~10.11.30	
附属中学校 選出委員	佐々木 和枝	理学部 選出委員	小林 功佳	9.12. 1~11.11.30		
会計課長	白井 清二		鷹野 景子	9.12. 1~11.11.30		
施設課長	鈴木 重之		生活科学部 選出委員	伊藤 美奈子	9.12. 1~11.11.30	
カリキュラム委員会(学務課)				田辺 新一	8.12. 1~10.11.30	
				御船 美智子	8.12. 1~10.11.30	
				学生部長	五十嵐 優	
学生委員会(学生課)						
文教育学部 選出委員	*耳塚 寛明	10. 4. 1~12. 3.31	文教育学部 選出委員	*三浦 謙	8. 4. 1~11. 3.31	
	西澤 奈津子	10. 4. 1~12. 3.31		平岡 公一	10. 4. 1~12. 3.31	
	菅野 健	9. 4. 1~11. 3.31		竹村 和子	9. 4. 1~11. 3.31	
理学部 選出委員	竹尾 富貴子	10. 4. 1~12. 3.31				
	菅本 晶夫	9. 4. 1~11. 3.31				
	益田 祐一	9. 4. 1~11. 3.31				
生活科学部 選出委員	會川 義寛	10. 4. 1~12. 3.31				

理学部選出委員	山田眞二	10. 4. 1~12. 3.31
	浅本紀子	10. 4. 1~11. 3.31
	市川哲彦	10. 4. 1~11. 3.31
生活科学部選出委員	藤原葉子	10. 4. 1~12. 3.31
	村田容常	9. 4. 1~11. 3.31
	伊藤美奈子	10. 4. 1~11. 3.31
学生部長	五十嵐脩	
入学試験委員会(入学主幹室)	前田ミチエ	10. 4. 1~12. 3.31
	富田守	9. 4. 1~11. 3.31
	楢木満生	10. 4. 1~12. 3.31
	會川義寛	9. 4. 1~11. 3.31
	山梨八重子	10. 4. 1~12. 3.31
	五十嵐脩	
	橋本幹夫	
公用体育施設等管理運営委員会(学生課)		
官職等	氏名	任期
文教育学部選出委員	* 杉山進	8. 6.16~10. 6.15
学生部長	五十嵐脩	
附属学校部長	石川宏	
会計課長	白井清二	
学生課長	森廣美	
保健管理センター運営委員会(学生課)		
官職等	氏名	任期
保健管理センター所長	* 永川祐三	
文教育学部選出委員	杉山進	9. 4. 1~11. 3.31
	本田郁子	10. 4. 1~12. 3.31
理学部選出委員	藤枝修子	9. 4. 1~11. 3.31
入学試験委員会(入学主幹室)	前田ミチエ	10. 4. 1~12. 3.31
	富田守	9. 4. 1~11. 3.31
	楢木満生	10. 4. 1~12. 3.31
	會川義寛	9. 4. 1~11. 3.31
	山梨八重子	10. 4. 1~12. 3.31
	五十嵐脩	
	橋本幹夫	

生活科学部 選出委員	大塚 恵	9. 4. 1~11. 3. 31
事務局長	橋本幹夫	
保健管理 センター所長	永川祐三	
情報処理 センター所長	細矢治夫	

文教育学部 選出委員	熊谷圭知	8. 10. 1~10. 9. 30
	市古夏生	
理学部 選出委員	山下貴司	
生活科学部 選出委員	吉村佳子	9. 10. 21~10. 9. 30

入学者選抜方法研究委員会（入学主幹室）

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	新井由紀夫	10. 4. 1~12. 3. 31
	石口彰	9. 4. 1~11. 3. 31
理学部 選出委員	藤原正彦	10. 4. 1~12. 3. 31
	塚田和美	9. 4. 1~11. 3. 31
生活科学部 選出委員	* 杉田孝夫	10. 4. 1~12. 3. 31
	大塚 恵	10. 4. 1~11. 3. 31
学生部長	五十嵐脩	
カリキュラム 委員会 委員長	耳塚寛明	

理学部附属臨海実験所運営委員会（理学部事務部）

官職等	氏名	任期
理学部長	*	
	平野恒夫	
	根本心一	
理学部 選出委員	富永靖徳	
	松本勲武	
	山下貴司	10. 4. 1~12. 3. 31
理学部 附属臨海 実験所 所長	清本正人	
文教育学部 選出委員	水野勲	
	内田忠賢	9. 4. 1~11. 3. 31
	本間清一	
生活科学部 選出委員	富永典子	10. 4. 1~12. 3. 31
	白井清二	
	施設課長 鈴木重之	

学芸員課程委員会（文教育学部事務部）

官職等	氏名	任期
文教育学部 人間社会学科 教育科学講座	小川剛	
文教育学部 人間社会学科 学科主任	* 鷹野光行	
文教育学部 選出委員	秋山光文	8. 10. 1~10. 9. 30
	安田次郎	

理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会 (理学部事務部)		
官職等	氏名	任期
理学部長	*平野恒夫	
R I 実験室長	松本勲武	
放射線取扱主任者	古田悦子	
文教育学部選出委員	杉谷 隆	10. 4. 1~12. 3. 31
理学部選出委員	浜谷 望	8. 10. 1~10. 9. 30
	芦原 坦	
	小川温子	
生活科学部選出委員	大塚 恵	9. 10. 1~11. 9. 30
	富永典子	

理学部極低温実験室運営委員会 (理学部事務部)		
官職等	氏名	任期
理学部長	*平野恒夫	
極低温実験室長	浜谷 望	
理学部選出委員	伊藤厚子	10. 4. 1~11. 3. 31
	永野肇	10. 4. 1~12. 3. 31
	芦原 坦	
生活科学部教授	畠江敬子	

情報処理センター運営委員会 (理学部事務部)		
官職等	氏名	任期
情報処理センター長	*細矢治夫	
情報処理センター主任	浅本紀子	
文教育学部選出委員	千歳壽一	8. 10. 1~10. 9. 30
	石口彰	
理学部選出委員	山田眞二	10. 4. 1~10. 9. 30
	小林功佳	9. 4. 1~10. 9. 30
生活科学部選出委員	畠江敬子	8. 10. 1~10. 9. 30
	田辺新一	
大学院人間文化研究科選出委員	耳塚寛明	
ジェンダー研究センター選出委員	館かおる	
生活環境研究センター選出委員	富永典子	
附属図書館長	大口勇次郎	
学生部長	五十嵐脩	
カリキュラム委員会委員長	耳塚寛明	

附属図書館運営委員会 (附属図書館事務部)		
官職等	氏名	任期
附属図書館長	*大口勇次郎	
文教育学部選出委員	大塚常樹	10. 4. 1~12. 3. 31

文教育学部 選出委員	佐藤光子	9. 4. 1~10. 9. 30
理学部 選出委員	横川光司	10. 4. 1~12. 3. 31
	鷹野景子	
生活科学部 選出委員	板倉壽郎	10. 4. 1~12. 3. 31
	大塚 恵	9. 4. 1~11. 3. 31
大学院人間文化研究科 選出委員	山田眞二	10. 4. 1~11. 5. 31
大学院人間文化研究科 選出委員	相原茂	9. 6. 1~11. 5. 31
ジェンダー研究センター 選出委員	館かおる	10. 4. 11~12. 3. 31
生活環境研究センター 選出委員	富永典子	10. 4. 1~12. 3. 31
カリキュラム委員会 委員長	耳塚寛明	

附属学校委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
附属学校部長	*石川宏	
文教育学部 選出委員	海老根静江	9. 4. 1~11. 3. 31
理学部 選出委員	室伏きみ子	10. 4. 1~12. 3. 31
生活科学部 選出委員	小池三枝	10. 4. 1~12. 3. 31
事務局長	橋本幹夫	
附属小学校長	高島元洋	
附属中学校長	田宮兵衛	

附属高等学校長	藤枝修子	
附属幼稚園長	黒田淑子	
附属小学校教頭	星野征男	
附属中学校教頭	井上泰次	
附属高等学校教頭	早崎捷治	
附属幼稚園教頭	桝田正子	

附属学校教育研究委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
附属学校部長	*石川宏	
文教育学部 選出委員	牛江ゆき子	10. 4. 1~12. 3. 31
理学部 選出委員	室伏きみ子	10. 4. 1~12. 3. 31
生活科学部 選出委員	牧野カツコ	10. 4. 1~12. 3. 31
文教育学部 人間社会科 学科選出委員	酒井朗	10. 4. 1~11. 3. 31
生活科学部 人間生活学科 選出委員	無藤隆	10. 4. 1~12. 3. 31
附属小学校長	高島元洋	
附属中学校長	田宮兵衛	
附属高等学校長	藤枝修子	
附属幼稚園長	黒田淑子	
附属小学校教頭	星野征男	

附属中学校教頭	井上泰次		文教育学部選出委員	秋山光文	
附属高等学校教頭	早崎捷治		理学部選出委員	石和貞男	
附属幼稚園教頭	桝田正子			細矢治夫	
附属小学校選出委員	田中千尋	10. 4. 1~12. 3. 31	生活科学部選出委員	五十嵐脩	
	成田信子	9. 4. 1~11. 3. 31		島田淳子	
附属中学校選出委員	清田淳子	10. 4. 1~12. 3. 31	大学院人間文化研究科選出委員	上野浩道	
	加々美勝久	9. 4. 1~11. 3. 31		内田伸子	
附属高等学校選出委員	石出みどり	10. 4. 1~12. 3. 31	附属図書館長	大口勇次郎	
	中津川義治	9. 4. 1~11. 3. 31	附属学校部長	石川宏	
附属幼稚園選出委員	上坂元繪理	10. 4. 1~12. 3. 31	学生部長	五十嵐脩	
	田中三保子	9. 4. 1~11. 3. 31	事務局長	橋本幹夫	

創立120周年記念事業特別委員会(庶務課)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
文教育学部長	平野由紀子	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部長	小林彰夫	
大学院人間文化研究科長	徳丸吉彦	
文教育学部選出委員	窪添慶文	

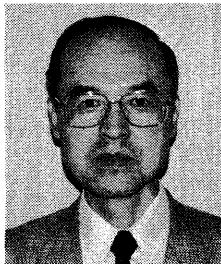
○学科主任

学 部	学 科 等	職 名	氏 名
文 教 育 学 部	哲 学 科	教 授	羽 入 佐 和 子
	史 学 科	"	小 風 秀 雅
	地 理 学 科	助教授	栗 原 尚 子
	国 文 学 科	教 授	岩 崎 千 鶴
	外 国 文 学 科		
	中 国 文 学 · 中 国 語 学	"	相 原 茂
	英 文 学 · 英 語 学	"	海 老 根 静 江
	仏 文 学 · 仏 語 学	"	中 村 弓 子
	教 育 学 科		
	教 育 学	"	鷹 野 光 行
	心 理 学	"	内 藤 俊 史
	舞 踊 教 育 学 科		
	舞 踊 教 育 学	"	石 黒 節 子
	音 楽 教 育 学	"	林 廣 子
理 学 部	人 文 科 学 科	助教授	栗 原 尚 子
	言 語 文 化 学 科	教 授	海 老 根 静 江
	人 間 社 会 科 学 科	"	鷹 野 光 行
	芸 術 · 表 現 行 動 学 科	"	石 黒 節 子
	数 学 科	"	渡 辺 ヒ サ 子
生 活 科 学 部	物 理 学 科	"	柴 田 文 明
	化 学 学 科	"	益 田 祐 一
	生 物 学 科	"	根 本 心 一
	情 報 科 学 科	"	金 子 晃
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	"	畠 江 敬 子
	人 間 生 活 学 科	"	楳 木 满 生

新任部局長紹介

理学部長

(任期 平成10年4月1日～平成12年3月31日)



氏名 平野 恒夫

生年月日 昭和12年1月24日

専攻 応用化学

〔略歴〕

昭和35年3月 東京大学工学部卒業
昭和37年3月 同 大学院化学系研究科応用化学専門課程修士課程修了
昭和40年3月 同 博士課程修了
昭和40年4月 東京大学助手
昭和47年11月 東京大学講師
昭和49年3月 東京大学助教授
平成2年10月 お茶の水女子大学理学部教授

〔モットー〕

常にベストをつくすこと。

〔趣味〕

山登り、テニス、音楽（クラシック）鑑賞、読書などなどですが、忙しくて昔の話になりました。

〔就任の言葉〕

私にとって一番楽しい時は、人々の寝静まったころ自分の研究に想いを巡らせている時と、学問にたいして学生さんが目を輝かせながら研鑽している姿に接する時です。学部長に決まった時、そうした機会が減るであろうことを憂えると共に、学部の代表として選ばれた以上その職責を自覚しなければならないと思いました。幸い、事務方の献身的なサポートと先生方のご理解に支えられてまずはスタートすることができました。この4月、理系に限って言えば大学院の改組も一段落して、次は残った学部をどうするかという問題が控えています。「少人数教育」を掲げてはいるものの、夢にあふれた新入生が4年次に研究室に配属されるときは並の人になっている現実に心を痛めています。学生さんに「学問の面白さ」を共感して頂くのが第一だと思いますが、学生さんが楽しく、かつ自発的に勉学できるように環境をどう整備していくかということと、研究・教育面で意欲をお持ちの先生方をどう支援していくかが、まず取り組むべき問題であると考えています。皆様のご協力のもとに努力していきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

人事

人 事 罷 動

発令年月日	氏名	官職等	異動前の所属・職名
◇ 転任			
10. 4. 1 " " " " " " " " " " " " 10. 5. 1	坂本好司 山田毅 波平恵美子 伊藤美重子 小林 稔 谷田部玲生 長嶋雲兵	会計課 長崎技術科学大学教育部学務課教務係教務主任 教授(文教育学部) 助教授(文教育学部) 附属小学校教諭 国立教育研究所主任研究官 工業技術院物質工学工業技術研究所基礎部理論化学研究室長	国立極地研究所管理部会計課 庶務課庶務係庶務主任 教授(九州芸術工科大学芸術工学部) 助教授(富山大学人文学部) 東洋芸術大学教育部附属大泉小学校教諭 附属高等学校教諭 教授(理学部)
◇ 併任			
10. 4. 1 " " " " " " " " " " " " " " " " " " 10. 5. 1	平野恒夫 原ひろ子 藤枝修子 小池三枝 袖井孝子 小野薰 佐々木健 長嶋雲兵	理学部長・評議員 併任期間 平成12年3月31日 センター長 併任期間 平成12年3月31日 附属高等学校長 併任期間 平成13年3月31日 評議員 併任期間 平成10年9月30日 評議員 併任期間 平成10年9月30日 理学部教授 併任期間 平成10年12月31日 文部省大臣官房文教施設部技術課 併任期間 平成11年3月31日 理学部教授 併任期間 平成10年9月30日	(理学部教授) (センター長) (理学部教授) (生活科学部教授) (生活科学部教授) (北海道大学大学院理学研究科教授) (施設課) (工業技術院物質工学工業技術研究所基礎部理論化学研究室長)
◇併任解除			
10. 4. 1 " "	島田淳子 小川昭二郎	評議員 評議員	(生活科学部教授) (生活科学部教授)
◇休職			
10. 4. 1	佐々木信一	休職期間更新 期間 平成10年7月31日	(会計課)
◇ 臨時の任用			
10. 3. 9 10. 4. 20	馬場由子 馬場由子	附属小学校教諭 臨時の任用更新 期間 平成10年6月23日	(附属小学校教諭)

発令年月日	氏 名	官 职 等	本務先の所属・職名
◇ 連携			
10. 4. 9	鈴木明身	講師 (大学院人間文化研究科客員教授)	東京都臨床医学総合研究所生体膜研究部門部長
"	川喜田正夫	講師 (大学院人間文化研究科客員教授)	東京都臨床医学総合研究所医化学研究部門部長
"	梅田真郷	講師 (大学院人間文化研究科客員助教授)	東京都臨床医学総合研究所炎症研究部門室長
"	佐藤昭夫	講師 (大学院人間文化研究科客員教授)	東京都老人総合研究所名誉所員
"	神田健郎	講師 (大学院人間文化研究科客員教授)	東京都老人総合研究所中枢神経部門研究部長
"	鈴木敦子	講師 (大学院人間文化研究科客員助教授)	東京都老人総合研究所自律神経部門研究員
"	高橋重郷	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成11年3月31日	厚生省国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長
"	西岡八郎	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成11年3月31日	厚生省国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部長
"	金子能宏	文部教官 (大学院人間文化研究科助教授) 併任期間 平成11年3月31日	厚生省国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部第三室長
10. 4. 14	一色賢司	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成11年3月31日	農林水産省食品総合研究所流通保全部上席研究官
"	井手 隆	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成11年3月31日	農林水産省食品総合研究所食品機能部栄養化学研究室長
"	大坪研一	文部教官 (大学院人間文化研究科助教授) 併任期間 平成11年3月31日	農林水産省食品総合研究所素材利用部穀類特性研究室長

◎ 外国人教師

発令年月日	氏 名	契約期間	異動区分
10. 4. 1	エドワード・J・シェーファー	契約更新 10.4.1~11.3.31	契約
"	オリファン・ヒュー・ファーガス	"	"
"	宋 燕	"	"
"	タキノ・シャロ・シャンタル	" (10. 4. 3死亡)	"

◎ 外国人研究員

発令年月日	氏 名	契約期間	異動区分
10. 4. 1	ウイーリング・サスキア・エレナ	契約更新 10.4.1~10.4.27	契約

◎ 非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
10. 4. 1	大久保純一	講師 (文教育学部)	10. 9. 30	跡見学園女子大学助教授
"	植村恒一郎	"	11. 3. 31	群馬県立女子大学助教授
"	岩田みゆき	"	10. 9. 30	神奈川大学日本常民文化研究所職員
"	澤井芳江	"	11. 3. 31	
"	丸山裕美子	"	10. 9. 30	
"	丸本高文人	"	"	
"	宮崎博賢	"	11. 3. 31	横浜市立大学助教授
"	木田達也	"	10. 9. 30	日本大学教授
"	高島一	"	"	
"	青木博	"	"	
"	島木達	"	"	
"	塚本	"	"	
"	橋高	"	"	
"	今井	"	"	
"	大木	"	"	
"	辻沼	"	"	
"	山野	"	"	
"	尾形	"	"	
"	本間	"	"	
"	上野	"	"	
"	野田	"	10. 9. 30	青山学院大学助教授
"	椎長	"	"	駿河台大学教授
"	桜井	"	"	東京女子大学教授
"	西原	"	"	文教大学助教授
"	中島	"	"	惠泉女学園大学講師
"	西宮	"	"	早稲田大学助教授
"	福鈴	"	"	武藏大学講師
"	木中	"	"	立教大学講師
"	福田	"	"	高岡法科大学講師
"	松小	"	"	京都文教大学講師
"	今井	"	"	都留文科大学教授
"	村川	"	"	相模女子大学助教授
"	西厚	"	"	
"	柳中	"	"	
"	渡山	"	"	
"	ジムス・ウイルコック	"	11. 3. 31	慶應義塾大学講師
"	入末	"	"	順天堂大学教授
"	荒鈴	"	"	
"	細風	"	"	
"	鴨梅	"	"	
"	若中	"	"	
"	千西	"	"	
"	渡西	"	"	
"	川車	"	"	
(理学部)				
"	松井弘	"	10. 9. 30	川村学園女子大学教授
"	井間重	"	"	東邦大学教授
"	細川淳	"	"	東京理科大学教授
"	鈴木代	"	"	中央大学教授
"	柳澤香	"	"	
"	中下澤	"	"	
"	渡村康	"	"	
"	千葉代	"	"	
"	西澤清	"	"	
"	渡沢清	"	"	
"	内瀬昇	"	"	
"	千瀬由	"	11. 3. 31	理化学研究所主任研究員
"	渡瀬俊	"	10. 9. 30	法政大学教授
"	内瀬真	"	"	東京理科大学教授
"	瀬内俊	"	"	城西大学助教授
"	瀬内由	"	"	東京理科大学講師

◆ 任用更新

10. 4. 1	五條 しおり	講 師 (文教育学部)	11. 3. 31	東京聖徳学園助教授
"	江川 ひかり	" "	"	
"	吉武 憲司	" "	"	慶應義塾大学助教授
"	佐藤 道生	" "	"	"
"	日向 一雅	" "	"	明治大学教授
"	林 達也	" "	"	駒沢大学教授

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 4. 1	佐藤普美子	講師 (文教育学部)	11. 3. 31	
"	戸沼市子	" "	"	成城大学授業助教
"	臼田真佐子	" "	"	武藏野音楽大学授業助教
"	富山太佳夫	" "	"	武藏野音楽大学授業助教
"	松尾直美	" "	"	武藏野音楽大学授業助教
"	光尾正幸	" "	"	武藏野音楽大学授業助教
"	伊藤平次	" "	"	獨協大学授業助教
"	中島三子	" "	"	東京都立大学授業助教
"	金子美都	" "	"	聖心女子大学授業助教
"	岩切一郎	" "	"	国際基督教大学授業助教
"	横山裕	" "	"	青山学院大学教授
"	中條忍	" "	"	日本大学教授
"	田中久美	" "	"	津田塾大学教授
"	有賀修美	" "	"	明海大学教授
"	千葉春真	" "	"	
"	塚田恭代	" "	"	慶應義塾大学教授
"	俵吉	" "	"	東京都立大学教授
"	小田川嘉代	" "	"	国学院大学教授
"	岩倉嘉代	" "	"	
"	伊藤紀万	" "	"	
"	中島尾浩	" "	"	
"	平谷貞	" "	"	
"	金藤千	" "	"	日本赤十字武藏野短期大学教授
"	伊渡禮	" "	"	
"	渡中道	" "	"	
"	相田由美	" "	"	白百合女子大学教授
"	新垣王	" "	"	
"	井上百	" "	"	
"	岡部玲	" "	"	武藏野音楽大学助教授
"	黒川ち	" "	"	
"	小池松	" "	"	十文字学園女子短期大学教授
"	薦曾治	" "	"	
"	高我清	" "	"	宮城学院女子大学教授
"	八久田み	" "	"	
"	林田き	" "	"	
"	平尾内	" "	"	
"	山静英	" "	"	
"	橋孫王	" "	"	
"	キース・ハリス	" "	"	
"	ライヤ・奥田	" "	"	
"	ジーリト・酒井	" "	"	
"	ジーリー・コーエン	" "	"	
"	本間裕子	(理学部)	"	慶應義塾大学教授
"	戸瀬信之	" "	"	
"	久保内信	" "	"	
"	西尾静	" "	"	日本大学教授
"	竹沢山惠	" "	"	
"	白向里	" "	"	桜の聖母短期大学助教授
"	木村万里	" "	"	立教大学助教授
"	豊田智子	" "	"	青山学院大学教授
"	美添泰樹	" "	"	聖心女子大学助教授
"	藤崎宏人	" "	"	東京工芸大学教授
"	利光子功	" "	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 4. 1	岡田陽子	講師 (生活科学部)	11. 3. 31	山脇学園短期大学助教授
"	豊田和二	"	"	"
"	野口ひろみ	"	"	山脇学園短期大学助教授
"	小林富久子	" (センター研究)	"	早稲田大学教授
"	伊藤るり子	"	10. 12. 31	立教大学教授
"	芦野由利子	"	11. 3. 31	日本家族計画連盟事務局次長
"	根村直美	講師 (研究機関研究員) (センター研究)	"	
"	海妻徑子	"	"	
"	石川裕子	"	"	
"	澤田留美	" (生活環境研究センター)	"	
"	中澤弥子	"	"	
"	柴佳世乃	講師 (附属高等学校)	"	
"	鈴木京子	"	"	
"	長谷川みゆき	"	"	
"	鬼木雅子	"	"	
"	川口美智子	"	"	
"	ステイブン・マイケル・ワード	"	"	
"	嶋口章子	(附属中学校)	10. 9. 30 11. 3. 31	
"	竹村朝子	"	"	
"	稻毛幸健	"	"	
"	佐藤英子	"	"	
"	石岡み	"	"	
"	スティーブン・マイケル・ワード	"	"	
"	西口敏治	(附属小学校)	"	
"	副島律子	(附属幼稚園)	"	
"	古市郁子	(保健センター)	"	
"	日暮真	(附属高等学校)	"	
"	渡部和宏	学校歯科医	"	
"	高田則久	学校薬剤師	"	

◇併任

10. 4. 1	片山洋之介	講師 (文教育学部)	11. 3. 31	茨城大学教授
"	秋山聰三	"	10. 9. 30	電気通信大学助教授
"	関根清一郎	"	11. 3. 31	東京大学教授
"	逸身喜一郎	"	"	"
"	金井新二樹	"	10. 9. 30	"
"	安成英弘	"	"	東京大学助教授
"	鳥成穂穂	"	"	東京大学助教授
"	鳥千弘	"	11. 3. 31	東京大学教授
"	小島田和典	"	"	千葉大学助教授
"	高今龍	"	"	東京大学教授
"	高遠靖也	"	"	"
"	今立敬二郎	"	10. 9. 30	図書館情報大学教授
"	遠坂正二郎	"	11. 3. 31	千葉大学助教授
"	立藤智子	"	10. 9. 30	信州大学医療技術短期大学助教授
"	立岩真子	"	"	東京大学助教授
"	阪中実充	"	"	宇都宮大学助教授
"	阪中実充	"	"	東京大学助教授
"	森重雄	"	"	手
"	西野文彦	"	"	国際日本文化研究センター助教授
"	丹野義彦	"	"	東京大学助教授

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 4. 1	渡部洋夫	講師(文教育学部)	11. 3. 31	東京大学教授授業
"	日比野治郎	"	10. 9. 30	千葉大学助教授授業
"	高橋伍利子	"	"	筑波大学助教授授業
"	細江利子	"	"	東京学芸大学教授授業
"	加藤富川	"	11. 3. 31	東京学芸大学助教授授業
"	長谷凱	"	"	茨城大学助教授授業
"	楊栄忍	"	"	東京大学助教授授業
"	野近幸信	"	10. 9. 30	"
"	吉田晴敬	(理学部)	"	東京学芸大学助教授授業
"	美利子	"	"	千葉大学助教授授業
"	加藤弘	"	11. 3. 31	立天文学助教授授業
"	長谷英雅	"	10. 9. 30	東京工業大学助教授授業
"	楊正俊	"	"	東京大学助教授授業
"	野瀬徹	"	"	東京大学助教授授業
"	近幸	"	"	東京大学助教授授業
"	吉田嘉良	"	"	東京大学助教授授業
"	石村信	"	"	東京大学助教授授業
"	國生	"	"	東京大学助教授授業
"	田代一	"	"	東京大学助教授授業
"	田代健子	"	"	横浜大学助教授授業
"	田代子	"	"	東京大学助教授授業
"	田代佳子	"	"	東京大学助教授授業
"	守	"	"	埼玉大学助教授授業
"	雄二	"	"	横浜国立大学助教授授業
"	彦作郎	"	11. 3. 31	東京外国语大学助教授授業
"	原洋晃	"	10. 9. 30	東京大学助教授授業
"	澤也	"	"	東京大学助教授授業
"	神子	"	"	東京大学助教授授業
"	澤子	"	"	東京大学助教授授業
"	守	"	"	東京大学助教授授業
"	雄二	"	"	東京大学助教授授業
"	彦作郎	"	"	東京大学助教授授業
"	原弘	"	"	東京大学助教授授業
"	安木克孝	"	"	東京大学助教授授業
"	西澤清	"	"	東京大学助教授授業
"	村佳	"	"	東京大学助教授授業
"	烟優利	"	"	東京大学助教授授業
"	子口全	"	"	東京大学助教授授業
"	田間利	"	"	東京大学助教授授業
"	澤田洋	"	"	東京大学助教授授業
"	田島真	"	"	東京大学助教授授業
"	林裕	"	"	東京大学助教授授業
"	溝多	"	"	東京大学助教授授業
"	金風	"	"	東京大学助教授授業
"	福大	"	"	東京大学助教授授業
"	福浅	"	"	東京大学助教授授業
10. 4. 9	岡田彦宏	(大学院人間文化研究科)	10. 10. 31	筑波大学開発センター教員授業
"	塚原守	"	11. 3. 31	埼玉大学教員授業
"	原弘	"	10. 9. 30	横浜国立大学教員授業
"	安木克孝	"	"	東京外国语大学教員授業
"	西澤清代	"	"	東京大学教員授業
"	村佳	"	"	東京大学教員授業
"	烟佳	"	"	東京大学教員授業
"	子口優利	"	"	東京大学教員授業
"	田間全	"	"	東京大学教員授業
"	澤田洋	"	"	東京大学教員授業
"	田島真	"	"	東京大学教員授業
"	林裕	"	"	東京大学教員授業
"	溝多	"	"	東京大学教員授業
"	風大	"	"	東京大学教員授業
"	福浅	"	"	東京大学教員授業
"	岡田彦宏	(ジェンダー研究センター)	10. 10. 31	横浜国大教員授業
"	塚原守	"	11. 3. 31	東京大学社会科学院教員授業
"	原弘	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	安木克孝	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	西澤清代	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	村佳	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	烟佳	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	子口優利	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	田間全	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	澤田洋	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	田島真	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	林裕	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	溝多	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	風大	"	"	東京大学社会科学院教員授業
"	福浅	"	"	東京大学社会科学院教員授業

◇ 兼 担

10.	4.	1	館 坂 元 章	"	(文教育学部)	10. 9. 30	教授(ジェンダー研究センター)
"			伊 藤 厚 子	"	"	11. 3. 31	助教授(大学院人間文化研究科)
"			富 永 靖 徳	"	(理 学 部)	"	教 授 "
"			出 口 哲 生	"	"	"	" "
"			今 野 美 智 子	"	"	"	助教授 "
"			堀 佳 也 子	"	"	"	" "
"			佐 藤 浩 史	"	"	"	教 授 "
"			河 村 哲 也	"	"	"	" "
"			五 十 巖 僕	"	"	"	" (生活環境研究センター)
"			富 永 典 子	"	"	"	助教授 "
"			原 ひ ろ 子	"	(生活科学部)	10. 9. 30	教 授(ジェンダー研究センター)
"			五 十 巖 僕	"	"	11. 3. 31	" (生活環境研究センター)

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 4. 1	大橋昌子	講師 (生活科学部)	11. 3. 31	教授(生活環境研究センター)
"	田中忠典	"	"	" "
"	高橋泰典	"	"	助教授 "
"	菊池通千	(文教育学部)	10. 9. 30	附属高等学校教諭
"	木村真冬	"	"	"
"	水岡万紀	"	"	附属中学校教諭
"	清木田淳子	"	"	附属高等学校教諭
"	中津川義浩	"	"	附属中学校教諭
"	小花横山修也	"	"	附属高等学校教諭
"	上花横山一実	"	"	"
"	永田田の祐	"	"	附属中学校教諭
"	宮古幸和	"	"	保健管理センター 教授
"	室菅田義勝	"	"	附属中学校教諭
"	茶山幸和	"	"	附属高等学校教諭
"	沖田義勝	"	"	附属中学校教諭
"	加藤吉々	"	"	附属高等学校教諭
"	園田晶伸	(理学部)	10. 9. 30	附属高等学校教諭
"	"	"	"	"
"	"	"	"	"
"	"	"	"	附属中学校教諭
"	"	"	"	"
"	"	"	"	附属幼稚園教諭
"	"	(生活科学部)	11. 3. 31	教授(大学院人間文化研究科)
"	"	"	"	" "
"	"	(文教育学部)	10. 9. 30	附属幼稚園教諭
"	"	"	"	" "
"	"	(理学部)	11. 3. 31	助教授 "
"	"	"	"	教授 "
"	"	"	"	助教授 "
"	"	(生活科学部)	"	教授 "
"	"	"	"	" "
"	"	"	"	助教授 "
"	"	"	"	" "
"	"	"	"	助教授 "
"	"	"	"	" "
"	"	"	"	助教授 "
"	"	"	"	" "
"	"	"	"	助教授 "
"	"	"	"	" "
"	"	"	"	助教授 "
"	"	"	"	" "
10. 4. 9	内春宮駒馬	(理学部)	"	助教授 "
"	吉田原込	"	"	" "
"	岡田昭次	"	"	助教授 "
"	田川温子	"	"	" "
"	小川昭二郎	"	"	助教授 "
"	島田淳子	"	"	" "
"	牧野カツコ	"	"	助教授 "
"	田辺新一	"	"	" "
"	田田常子	"	"	助教授 "
"	伊藤美奈子	"	"	" "
"	田代和美	"	"	" "
"	御船美智子	"	"	" "

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 任用更新				
10. 4. 1	枝恵子	事務補佐員 (会計課)	11. 3. 31	
"	和里洋朝	臨時用務員	"	(志賀高原体育運動場)
"	頭本月	"	"	(館山野外教育施設)
"	藤中並	事務補佐員 (学務課)	"	
"	印山榎下	" (学生課)	"	
"	井手好	"	"	
"	三山樋山	"	"	
"	岡池田	臨時用務員	10. 5. 31	
"	近吉	"	"	
"	小清	事務補佐員 (入学主幹付)	11. 3. 31	
"	水鈴	" (附属図書館)	"	
"	前宮	"	"	
"	高森	"	"	
"	平岡	臨時用務員 (附属高等学校)	11. 3. 31	
"	藤杉	" (附属中学校)	10. 9. 30	
"	中陶瀬	臨時用務員	11. 3. 31	
"	長志	" (附属小学校)	"	
"	渡田	事務補佐員 (附属幼稚園)	"	
"	高田	臨時用務員	"	
"	坂上	教務補佐員 (文教育学部)	"	
"	猪辻	事務補佐員	10. 9. 30	
"	上畦	教務補佐員	11. 3. 31	
"	近井	"	"	
"	梅上	事務補佐員	"	
"	塚林	"	"	
"	福本	事務補佐員	"	
"	吉美	臨時用務員 (理学部)	"	
"	西濱	事務補佐員	"	
"	小千	教務補佐員	"	
"	市森	"	"	
"	重中	事務補佐員	"	
"	村洋	"	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
10. 4. 1	馬渕 依子	教務補佐員 (理学部)	11. 3. 31	
"	濱野 光代	事務補佐員	"	
"	井上 喜代子	"	"	
"	丹羽 裕子	教務補佐員	"	
"	畠山 美紀子	"	"	
"	関和 阳子	"	(生活科学部)	10. 9. 30
"	関口 伸子	"	"	11. 3. 31
"	飯島 久美子	"	"	"
"	黒澤 田和淑子	"	"	"
"	嶋田 駿愛子	"	"	"
"	藤波 難佐	"	"	"
"	柳瀬 サエ子	"	"	10. 9. 30
"	平野 順子	"	"	11. 3. 31
"	工藤 由貴子	"	"	"
"	室村 雅子	"	"	"
"	前木 静華子	"	"	"
"	青藤 真紀子	事務補佐員	"	"
"	斎藤 優子	教務補佐員 (生活環境研究センター)	"	"
"	金林 千野力	技術補佐員 (研究支援推進員)	"	"
"	堀内 鶴正	教務補佐員 (センター)	"	"
"	荻造 浅村	"	"	"
"	造浅 村上	事務補佐員	"	"
"	造浅 小佐	技術補佐員 (研究支援推進員)	"	"
"	荻造 石井	事務補佐員 (大学院人間文化研究科)	"	"
"	造浅 石井	"	"	"
"	妙子	"	"	"

◇ 退職

10. 3. 30	村井 麻里子 伊藤 恵恵由 鈴木 藤季 佐川 里惠 工藤 季倫 渡邊 喜江子 鈴木 江子 菊地 久江子 上山 仁江子 佐井 上喜代子 石井 妙子	事務補佐員 (庶務課) 事務補佐員 (会計課) 事務補佐員 (学生課) 事務補佐員 (附属図書館) 事務補佐員 (理学部) 臨時用務員 (理学部附属臨海実験) 事務補佐員 (大学院人間文化研究科) 事務補佐員 (会計課) 事務補佐員 (大学院人間文化研究科)		
10. 4. 30				

学事

平成11年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学（社会人特別選抜を含む） 学生募集要項

お茶の水女子大学理学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施しています。

本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍しておられる方々のリカレント教育や、短期大学・高等専門学校を卒業して更に深い専門知識を求めようとする方に、より高度な理学部専門教育の機会を提供することが、この制度の趣旨であります。

これが、自然科学の修学を目指す女性の方々の更なる高みへの飛翔の出発点となることを期待いたします。

I 一般選抜

1. 募集人員

学科	募集人員
数学科	
物理学科	
化学科	
生物学科	
情報科学科	10名

2. 出願資格

次のいずれかに該当する女子とする。

学科	出願資格
数学科 物理学科 化学科 生物学科	(1)大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者 (5)平成11年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者
情報科学科	(1)大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成11年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者

3. 出願期間

平成10年6月8日（月）から平成10年6月12日（金）まで。
(6月12日消印有効)

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書（履修中の科目も記載すること。）	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手を貼った定形郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で理学部事務部あてに郵送すること。

なお、『理学部第3年次編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学理学部事務部

〒 112-8610 東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号

☎ 03 (5978) 5287~8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。

学科名	7月 1日 (水)	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10 : 00 ~ 12 : 00
	英 語	13 : 00 ~ 14 : 00
	口述試験	15 : 00 ~
物理学科	数 学	9 : 00 ~ 10 : 30
	物理 学	10 : 40 ~ 12 : 10
	口述試験	13 : 30 ~
化 学 科	化 学	10 : 00 ~ 12 : 00
	英 語	13 : 00 ~ 14 : 00
	口述試験	15 : 00 ~
生物学科	生 物 学	10 : 00 ~ 12 : 00
	英 語	13 : 00 ~ 14 : 00
	口述試験	15 : 00 ~
情報科学科	数 学	9 : 00 ~ 10 : 30
	情 報**	10 : 40 ~ 12 : 10
	英 語	13 : 00 ~ 14 : 00
	口述試験	15 : 00 ~

* 微分・積分、行列と行列式

** 第二種情報処理技術試験程度

II 社会人特別選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数学科	若干名
物理学科	
化学科	
生物学科	
情報科学科	

2. 出願資格

入学時に社会人としての経験を1年以上有し、次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数学科	(1)大学を卒業した者
物理学科	(2)短期大学を卒業した者
化学科	(3)高等専門学校を卒業した者
生物学科	(4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者
情報科学科	

なお、入学時において現職のまま入学しようとする者は、入学手続の際に企業等の所属長の入学承諾書（様式随意）を提出すること。

3. 出願期間

平成10年6月8日（月）から平成10年6月12日（金）まで。
(6月12日消印有効)

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（郵便為替）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手を貼った定形郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で理学部事務部あてに郵送すること。
なお、『理学部第3年次（社会人特別選抜）編入学願書』と朱書すること。
お茶の水女子大学理学部事務部
〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
☎ 03 (5978) 5287~8

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。
なお、詳細については、理学部事務部へ問い合わせること。

学科名	7月 1日（水）	
	試験科目	時 間
数学科	数学*	10:00~12:00
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物理学科	数学	9:00~10:30
	物理学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化学科	化学	10:00~12:00
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生物学科	生物学	10:00~12:00
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情報科学科	数学	9:00~10:30
	情報報**	10:40~12:10
	英語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分、行列と行列式

** 第二種情報処理技術試験程度

III 合格発表等

1. 合格者の発表

- (1) 7月9日(木)正午の予定。理学部1号館内掲示板に掲示する。
合格者には、合格通知書を郵送する。
- (2) 入学手続関係書類は、平成11年3月上旬に送付する。

2. 入学料及び授業料

- (1) 入 学 料 275,000 円
- (2) 授業料年額 469,200 円

3. 修学条件

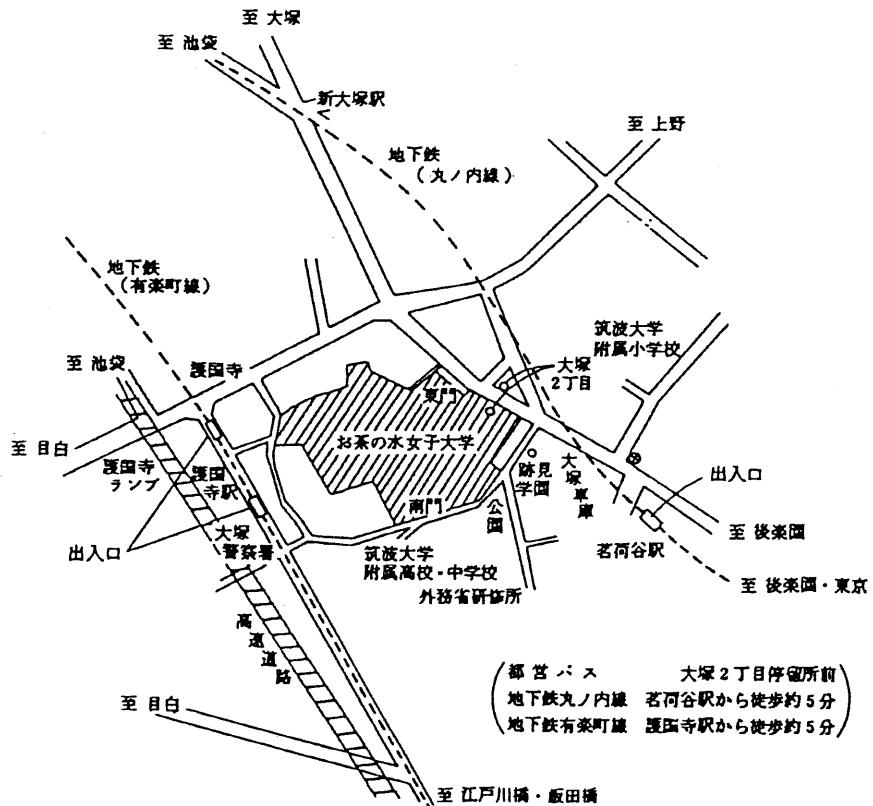
入学の時期は平成11年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学理学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士（理学）の学位を授与する。

4. その他の

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、160円切手を貼った角形2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒(切手貼付)を同封し、必ず返信先を明記すること。

5. 大学所在地案内

都営バス 大塚2丁目停留所前
地下鉄 丸の内線 茅荷谷駅 徒歩約5分
" 有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分



お茶の水女子大学理学部履修概要

1. 履修方法及び課程の修了

- (1) 卒業するためには、本学理学部履修規程に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。
- (2) 本学部に編入学前に在学した大学等において修得した単位については、本学部の定める基準に従って卒業要件単位として認定する。
- (3) 卒業に必要な単位を修得した者については、学士（理学）の学位を授与する。

2. 各学科の授業科目

学 科	専 攻 科 目 (必 修)
数 学 科	初等代数学、線形代数、同演習、微分積分学、同演習、微分積分学統論、同演習、線形代数統論、幾何学序論、同演習、位相空間論、同演習、離散数学、同演習、関数論、同演習、現代数学講話、数学講究
物理学科	古典力学、解析力学、力学系理論、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、物理数学Ⅰ・Ⅱ、数理物理学、量子力学Ⅰ・Ⅱ、多体系量子力学、熱・統計力学、量子統計力学、固体電子論、相転移物理学、凝縮系物理学、原子核物理学、素粒子物理学、基礎物理学実験、物理学実験、特別研究
化 学 科	基礎物理化学、定量分析化学・化学平衡論、構造有機化学、基礎無機化学、構造生化学、構造物理化学、物性物理化学、機器測定法、反応有機化学、構造無機化学、生体分子反応学、分子分光学、基本化学実験、無機化学実験、分析化学実験、有機化学実験、物理化学実験、生物化学実験、化学演習、特別研究
生物学科	生化学、生物物理学、動物系統学、植物形態学、植物生理学、基礎遺伝学、分子遺伝学、分子細胞生物学、代謝生物学、細胞生物学、動物生理学、発生生物学、生物学実習Ⅰ・Ⅱ、生物学演習、特別研究
情報科学科	線形代数、微分積分学、数理基礎論、計算機システム序論、データ構造とアルゴリズム、確率序論、関数論、離散数学、プログラム作成実習、自然情報基礎論、数値計算、情報理論、計算基礎論、オペレーティングシステム、言語理論とオートマトン、特別研究

※ 上記授業科目以外に、専攻科目（選択）、関連科目が多数開講されている。

○学位授与

(課程修了によるもの)

学位授与日：平成10年3月23日

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏名	本籍	博士論文名
甲第81号	博士(理学)	孫暉	中華人民共和国	Cloning of Putative Olfactory Receptor Genes in Medakafish, <i>Oryzias latipes</i> [メダカの嗅覚レセプター遺伝子のクローニング]
甲第82号	博士(理学)	堀尾敦子	神奈川県	ショウジョウバエの体内時計に関する遺伝子 <u>period</u> の集団遺伝学的研究 — <i>D. simulans</i> の種内変異を中心として
甲第83号	博士(学術)	山田千香子	茨城県	カナダにおける日系移民社会のエスニック・アイデンティティとその変容 —ステイブトンとトロトの和歌山県出身者を事例として—
甲第84号	博士(人文科学)	王迪	台灣	日本における老莊思想の受容 —主として口義本について—
甲第85号	博士(学術)	洪賢秀	大韓民国	現代韓国における「孝」の再生産と変容 —教科書とテレビドラマに表れた「孝」のイメージ
甲第86号	博士(人文科学)	馬曉華	中華人民共和国	第二次世界大戦期における米国の対アジア政策の転換 ～移民政策の変容を中心に～
甲第87号	博士(人文科学)	西條美紀	東京都	談話におけるメタ言語の役割 —日本語母語話者・日本語学習者による談話展開と理解—
甲第88号	博士(学術)	小林香代	愛知県	演者たちの「共同体」 —東京エイサーシンカをめぐる民族誌的説明—
甲第89号	博士(学術)	松原洋子	東京都	日本における優生政策の形成 —国民優生法と優生保護法の成立過程の検討—
甲第90号	博士(社会科学)	周一川	中華人民共和国	中国人女性の日本留学史研究 —民国初期を中心に—

甲第91号	博士（学術）	朴 善 姫	大韓民国	韓国シャーマンの生理心理学的な研究 －トランス時と日常の意識を中心として－
甲第92号	博士（人文科学）	篠原桂子	東京都	乳児における音声発達の基礎過程 －規準喃語の出現とリズミカルな運動の発達的関連－
甲第93号	博士（学術）	薬師神 玲子	千葉県	3次元ノイズ空間における面及び形態の検出
甲第94号	博士（理学）	石川百合子	東京都	明治以降の降水分析データに基づく東京における酸性雨成分の変動
甲第95号	博士（理学）	本山美穂	神奈川県	The Morphology and Kinetic of Phase Separating Mixtures (混合系の相分離におけるモルフォロジーとカイネティクス)
甲第96号	博士（理学）	上杉智子	愛知県	Study of Baryogenesis due to CP Violating Domain Wall at the Electroweak Phase Transition
甲第97号	博士（理学）	古賀恭子	長崎県	好酸性あるいは耐塩性の单細胞緑藻におけるアブシジン酸とイチレンの量的変化について
甲第98号	博士（理学）	斎藤智美	東京都	ゲージ場の3点結合におけるCP対称性の破れ
甲第99号	博士（理学）	坂戸美穂	神奈川県	真核生物の鞭毛における滑り屈曲変換機構 軸糸の運動性に対するNi ²⁺ の作用の解析からのアプローチ
甲第100号	博士（理学）	佐藤あやの	神奈川県	ヒトアネキシン分子の生化学的研究 －アネキシンIVを中心に－
甲第101号	博士（理学）	里岡純子	宮崎県	希釈反強磁性体のパーコレーション濃度とスピングラス様凍結
甲第102号	博士（理学）	杉浦郁子	愛知県	高度好熱菌由来メチオニルtRNA合成酵素の結晶構造から見たクラスIアミノアシルtRNA合成酵素のサブクラス特異性

甲 第 103号	博士(学術)	西川 陽子	東京都	アスコルビン酸関連化合物の構造と化学的特性 -特に酸化型アスコルビン酸を中心に-
甲 第 104号	博士(理学)	早瀬 友美乃	大分県	反応拡散系におけるパルスの衝突と分裂
甲 第 105号	博士(理学)	藤原 あい子	東京都	低振動数ラマン散乱による同位体水の動的構造
甲 第 106号	博士(学術)	王 冬梅	中華人民共和国	茶香気形成に関する化学的研究

(論文提出によるもの)

学位授与日: 平成10年3月24日

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏名	本籍	博士論文名
乙第74号	博士(学術)	時友 裕紀子	東京都	タマネギのフレーバー成分の変化に関する食品化学的研究
乙第75号	博士(理学)	佐々木 ひとみ	東京都	多糖を中心とした不溶性支持体による液体クロマトグラフィー
乙第76号	博士(理学)	長尾 夫美子	神奈川県	Studies on the reason for impaired cytotoxicity in low NK activity individual
乙第77号	博士(理学)	井上 淑子	佐賀県	甲殻類鰓の血液循環経路に関する形態学的研究 ～鰓動脈によるガス交換機能の調節～
乙第78号	博士(人文科学)	中野 節子	石川県	考える女たち -仮名草子から「女大学」-
乙第79号	博士(理学)	大道 等	東京都	重心運動の動作学 ～身体速度と外的仕事の生体力学的分析～
乙第80号	博士(人文科学)	小浜 正子	東京都	近代上海における社団、都市社会、そして国家
乙第81号	博士(人文科学)	矢口 悅子	千葉県	イギリス成人教育におけるリベラリズム -責任団体制度を中心に-

乙第82号	博士（理 学）	伊 達 敦 子	福 島 県	Evolutionary history and mechanisms of the <i>Drosophila Cecropin</i> gene family
乙第83号	博士（人文科学）	矢 嶋 美都子	群 馬 県	○ 信 研 究 — 恥 意 識 と 修 辞 の 特 色 に つ い て —
乙第84号	博士（人文科学）	山 口 真 美	神 奈 川 県	顔 探 の 特 徵 情 報 を 研 究 — 探 索 的 年 齢 に つ い て — 情 報 を 中 心 に つ い て —



論文提出による学位授与

○卒業式及び学位記授与式

第46回卒業式及び第34回学位記（修士）授与式、第15回学位記（博士）授与式が3月23日（月）大学講堂で挙行された。

卒業者数及び修了者数

・卒業者数	(590名)	
文教育学部	255名	
理 学 部	146名	
生活科学部	188名	
家政学部	1名	
・修了者数	(241名)	
修士課程	人文科学研究科	88名
	理学研究科	72名
	家政学研究科	53名
博士（前期）課程	人間文化研究科	2名
博士課程	人間文化研究科	26名

○入 学 式

平成10年度入学式が4月9日（木）大学講堂で挙行された。

入 学 者 数

・学 部	(535名)	(37名)
文教育学部	235名	第3年次編入学 15名
理 学 部	139名	" 9名
生活科学部	161名	" 13名
・大学院人間文化研究科	(351名)	
博士前期課程	243名	
博士後期課程	108名	

名
氏
教
育
文
學
部
(255名)

麗香きみ香	子子薰よ子子	美子子子弓美子ね子子	江子
日すず 明みあ利	日すず 尚ち朋実	日お希 悦花今明か霧有	衣か恵一あ理光
森井口田本	山橋川上巣	野澤寄本見部間	藤片野崎口野田武本田
大櫻田戸山	岡栗高中村鳥	上岡酒谷山渡半	安岩小柴谷深松宮山野
科保本谷増田野	子草子文子子	真子恵子子名美	子子子恵帆子代子佳香
久大坂関徳森杉	史千郁里夕文	里代由	津希路亞祐静美綾幸佐由里
哲雅衣り生彩子	科崎藤野谷岡田	理満幸亮香真	智嶋藤井口島原井松茂
映み弥陽史合	岩加高土松神	学五大倉高八若松	戸戸戸戸戸戸
業文教	科嵐田持木木林田	科嵐田十和	中国語学木田
卒塚須木花下辺	科部嵐本藤中野浦野本藤	科部嵐本藤中野浦野本藤	江子
飯黒鈴立宮渡	奈崎中山場	科部嵐本藤中野浦野本藤	ゆ絵美
幸土香恵理久	伊柿清田島馬	科部嵐本藤中野浦野本藤	ま里久智奈智公智美麻
見山藤内田田	東大工鈴村吉中	堀藤木井田村	智嶋藤井口島原井松茂
畔片佐竹新吉	立頭野原山水田井木田	立頭野原山水田井木田	芝永
秋岡小武中吉	足井岡栗瀬日町三八吉	立頭野原山水田井木田	奥金高平山戸
青大片佐中吉藤	保崎所木村牧田野田	立頭野原山水田井木田	大川鈴山山
東安岩城鈴中藤松森吉	木西岡藤条岡掛	立頭野原山水田井木田	須口木北藤
新高鈴	江田原崎田田野川分本	立頭野原山水田井木田	田武橋田本島
阿保保	荒福山	立頭野原山水田井木田	須口木北藤
久塩白園中橋星國坂	瀬原本	立頭野原山水田井木田	田武橋田本島
飯田利惠	江田原崎田田野川分本	立頭野原山水田井木田	須口木北藤
田島下	瀬原本	立頭野原山水田井木田	田武橋田本島
廣湯山	田柄表川瀬澤内	立頭野原山水田井木田	須口木北藤
秋荻齋成山	美優順麗桜	立頭野原山水田井木田	田武橋田本島
飯田利惠	伊開柴信若	立頭野原山水田井木田	須口木北藤
大野	舞踊起子	立頭野原山水田井木田	須口木北藤

理 学 部 (146名)

生活科学部 (188名)

子予子予子子穂子紀	代希子子子穂彩
幸章直仁浩真亜 藤西	都津 康美謡恵敦美
伊小瀧堤長宮山 野川本	島谷林井町田澤
工学 美子子子穗香恵子	浦奥小菅中百頬
活 仁直博妙美理百菜	科来川保光村本川
境 伊神高田中舟山林	市久 小小實田宮吉
環 伊子佐子子子子	科生 食物生紀
活 美留理昭陽彩素敦	（食暢真聰由友知）
生 水崎木中谷田肩川	（子子美香絵子子）
環 穴岡高田中深山佐	恭雅惠淑千喜祐
活 伊子佐子子子子	黒野下原木内本
境 伊神高田中舟山林	石岡木榦高宮山
環 伊子佐子子子子	子佳子子子美保
活 美留理昭陽彩素敦	美希
生 水崎木中谷田肩川	寛史裕尚由弘美
環 穴岡高田中深山佐	山宿伯内甲田上岡
活 伊神高田中舟山林	野川山藤木湊崎
生 水崎木中谷田肩川	青及片齋鈴久山
環 伊子佐子子子子	秋指佐竹都濱村吉

帆恵子子	き子子子文マ子苗紀子	子子美子子子加衛子	乃薰貴美絵子
未淑恭明	ゆみ文鏡工知香夏律	裕花清麻愛由由	希
山木川浦谷	園橋澤川木邊川明内	田橋原岐野村山川	志美晴理亞
亀鈴長光	上金黒笠鉢田中藤森横	石大木志中野丸王及	
科学子子か子子	臨惠苗美里香子子美美子美	社子恵紀貴子保里み穂	
科学子子や美	達理早英衣和佳美裕仁聖裕	活奈	
(人佳麻さ祐晶)	(科木野田本田石田池崎本藤)	(生加知由麻律美祐ま奈	
境学小阪仲三廣	生植小久坂杉立豊蓮松山岩	科部畠頭藤西川島頭尻	
科川本田代田	人優知美千江明加真三文紀	活阿江川佐中滑眞龍沼	
生恭あ寛	間香子帆子子子奈紀恵子子	生永香洋し良智	
生恭あ寛	人花利	科場暮本崎井屋見	
生恭あ寛	間子子子子絵美り央子	活勘小杉野堀守吉	
生恭あ寛	人尚史明淳奈聖か麻優	生(生)化學	
生恭あ寛	間子子子子絵美り央子	子子奈子子里穂	
生恭あ寛	人尚史明淳奈聖か麻優	人紀美加	
生恭あ寛	間子子子子絵美り央子	純由可麻共由瑞	
生恭あ寛	人尚史明淳奈聖か麻優	奥木小西原宮能	
生恭あ寛	間子子子子絵美り央子	子い樹子里子子	
生恭あ寛	人尚史明淳奈聖か麻優	久ま眞明絵貴悦	
生恭あ寛	間子子子子絵美り央子	田本林込川田本	
生恭あ寛	人尚史明淳奈聖か麻優	上岸小中長三山	
渡辺美弥子	以子史子子	子子子子子ほ美え祝子果	谷
渡辺裕美花	峰恵洋	共美潮子穂子枝子奮記	
渡辺裕美花	知美洋	人さ理美	
渡辺裕美花	智宗以曉啓ま聰か	仁あ志真和久	
渡辺裕美花	尚朋	乙	
内後富松大	菌藤田永和	阿上兼小田長幌山草	
内後富松大	上谷山藤岡橋倉本井田木村	野村子山中坂田山谷	
内後富松大	井大亀近杉高東橋松山青	村村松浦田崎島	
内後富松大	阿上兼小田長幌山草	奥木小西原宮能	
荒大亀小清瀬綱中細山吉	川串山寺水林	田本林込川田本	
荒大亀小清瀬綱中細山吉	渡川下村	上岸小中長三山	
美野弘下形谷	倉川原池木村原崎原笠	谷	
美野弘下形谷	朝市小小鈴中平山洪篠		
渥小土眞山			

家政学部(1名)

食 物 学 科

葛 谷 悅 子

修了者 氏名

大学院修士課程

人文科学研究科(88名)													
土福	屋永	知	葉代	哲	學	專	攻	記	世	廣	川	曉	生
寺古川	村工	綾力	子ノエミ	香立	織子	萩	本	記	世	廣	川	曉	佐子
荒武	木藤	志由	紀子	充久	史美	松中	攻本	幹子	眞竹	邊野	美幸	佐子	
阿金	部	満美	子英	間藤	学子	中松	攻本	妙	眞竹	邊野	美幸	佐子	
子但	安	加余	繼子	山渡	理子	長長	尾尾	朋洋	子子	前屋敷	史	子	
市本	川田	千恵	子子	沼木	日本文	藤杉	攻本	恵子	水谷	彩			
大堀李	道	典	子	長佐々	文み穂	専	村	紀	水谷				
				タケミ	文	森	中						
				タケミ	文	専	攻						
				タケミ	文	梅	中						
				タケミ	佳子	澤	攻						
				タケミ	由智	直	中						
				タケミ	育子	美	田						
				タケミ	子	田代							
				タケミ	子	琴							
				タケミ	子	恵							

焦田	中	巨美	帆帆	池福	田島	後藤	藤春	佳木	佳苗	子子	幸希	子希
遠井齊	藤手藤	綾眞みどり	乃理り	大原古	野瀬	江子子	教育	専攻	田	尾島	幸紀	彩子子姫
池齋鶴三天	田見村野	玲美千由千	子子子美春	石田中渡杉	崎中嶋邊山	日本言語文化	専攻	丸淵岡	さ柄紀	留藤崎田	由妙英	紀紀
大壽前	塚村原	穂子子	穂子子	勝友村	見田木	子恵子美よすすみ	兼谷西金西	攻	き珠子	近津廣林	由浩	由妙英
淺島松	川村下	恵美菜裕穗	理紀子	氏登八	家地島	春美和	世穂美	攻	薰子紀宣子	田原崎	夏	紀佳子
磯大菊辻吉	部串田村	優有洋千知	道博佳秋	上沖木辻渡	田下井邊	物知美亞	理子子矢	攻	衣裕香	塚田	絵祈江	美史美
五鈴永張	烟木嶋	十奈	子美子岩	伊田古	藤中川	化晴睦朋陽惠	子子子子子	吉島邊	惠子子ら	田村林下	葉亜由浩	子紀子子
市小高中兼	村寺野村子	圭光彩宏小百合	子永子子合	伊黒竹福	藤田房島	生恵里陽	物美子子	攻木烟泉	緒子季	室田本	純朱佳	子美子
太久松古野	田和井賀崎	久佐愛松仁	子子奈香美	尾中向杉	形野井浦	児童節	子子穗子	攻藤木中牧	ほ子果子	田木古代	正佐早夕	子子苗子
伊佃村	藤井	由和七	子泉州江	江中金	烟沢	葉美真	穂子子	攻下里崎田	ちみ理利雅	岩高中八	惠紀	子子苗子
相栗津山河	原本山本村	真美典浩久仁嘉	紀穂子代子	雨膏成柚新	宮野田本村	被敏真千	子子形	攻川風	み理利雅	田木角口	久洋美	子美花
前田	綾子	仁	家庭	坂	仁	有閑	子	攻城戸宅田	子保み子	清福六山	彩久美	い子草華淑

理学研究科 (72名)

焦田	中	巨美	帆帆	池福	田島	後藤	藤春	佳木	佳苗	子子	幸希	子希
遠井齊	藤手藤	綾眞みどり	乃理り	大原古	野瀬	江子子	教育	専攻	田	尾島	幸紀	彩子子姫
池齋鶴三天	田見村野	玲美千由千	子子子美春	石田中渡杉	崎中嶋邊山	日本言語文化	専攻	丸淵岡	さ柄紀	留藤崎田	由妙英	紀紀
大壽前	塚村原	穂子子	穂子子	勝友村	見田木	子恵子美よすすみ	兼谷西金西	攻	き珠子	近津廣林	由浩	由妙英
淺島松	川村下	恵美菜裕穗	理紀子	氏登八	家地島	春美和	世穂美	攻	薰子紀宣子	田原崎	夏	紀佳子
磯大菊辻吉	部串田村	優有洋千知	道博佳秋	上沖木辻渡	田下井邊	物知美亞	理子子矢	吉島邊	衣裕香	塚田	絵祈江	美史美
五鈴永張	烟木嶋	十奈	子美子岩	伊田古	藤中川	化晴睦朋陽惠	子子子子子	攻木烟泉	惠子子ら	田村林下	葉亜由浩	子紀子子
市小高中兼	村寺野村子	圭光彩宏小百合	子永子子合	伊黒竹福	藤田房島	生恵里陽	物美子子	攻藤木中牧	緒子季	室田本	純朱佳	子美子
太久松古野	田和井賀崎	久佐愛松仁	子子奈香美	尾中向杉	形野井浦	児童節	子子穗子	攻下里崎田	ほ子果子	田木古代	正佐早夕	子子苗子
伊佃村	藤井	由和七	子泉州江	江中金	烟沢	葉美真	穂子子	攻川風	ちみ理利雅	岩高中八	惠紀	子子苗子
相栗津山河	原本山本村	真美典浩久仁嘉	紀穂子代子	雨膏成柚新	宮野田本村	被敏真千	子子形	攻城戸宅田	子保み子	田木角口	久洋美	子美花
前田	綾子	仁	家庭	坂	仁	有閑	子	攻川風	子保み子	清福六山	彩久美	い子草華淑

家政学研究科 (53名)

焦田	中	巨美	帆帆	池福	田島	後藤	藤春	佳木	佳苗	子子	幸希	子希
遠井齊	藤手藤	綾眞みどり	乃理り	大原古	野瀬	江子子	教育	専攻	田	尾島	幸紀	彩子子姫
池齋鶴三天	田見村野	玲美千由千	子子子美春	石田中渡杉	崎中嶋邊山	日本言語文化	専攻	丸淵岡	さ柄紀	留藤崎田	由妙英	紀紀
大壽前	塚村原	穂子子	穂子子	勝友村	見田木	子恵子美よすすみ	兼谷西金西	攻	き珠子	近津廣林	由浩	由妙英
淺島松	川村下	恵美菜裕穗	理紀子	氏登八	家地島	春美和	世穂美	攻	薰子紀宣子	田原崎	夏	紀佳子
磯大菊辻吉	部串田村	優有洋千知	道博佳秋	上沖木辻渡	田下井邊	物知美亞	理子子矢	吉島邊	衣裕香	塚田	絵祈江	美史美
五鈴永張	烟木嶋	十奈	子美子岩	伊田古	藤中川	化晴睦朋陽惠	子子子子子	攻木烟泉	惠子子ら	田村林下	葉亜由浩	子紀子子
市小高中兼	村寺野村子	圭光彩宏小百合	子永子子合	伊黒竹福	藤田房島	生恵里陽	物美子子	攻藤木中牧	緒子季	室田本	純朱佳	子美子
太久松古野	田和井賀崎	久佐愛松仁	子子奈香美	尾中向杉	形野井浦	児童節	子子穗子	攻下里崎田	ほ子果子	田木古代	正佐早夕	子子苗子
伊佃村	藤井	由和七	子泉州江	江中金	烟沢	葉美真	穂子子	攻川風	ちみ理利雅	岩高中八	惠紀	子子苗子
相栗津山河	原本山本村	真美典浩久仁嘉	紀穂子代子	雨膏成柚新	宮野田本村	被敏真千	子子形	攻城戸宅田	子保み子	田木角口	久洋美	子美花
前田	綾子	仁	家庭	坂	仁	有閑	子	攻川風	子保み子	清福六山	彩久美	い子草華淑

人間文化研究科博士 (前期) 課程 (2名)

菅牧子 小紫 誠子 数理・情報科学専攻

大 学 院 博 士 課 程
人間文化研究科 (26名)

孫 洪	賢	暉 秀	堀 馬	尾 敦	比較文化学専攻 子 華	山西	田 條	千 香	王 小	林 香	廸 代
松 葉 師	原 神	洋 玲	子 子	周	人間発達学専攻 一 川	朴		善 姫	篠 原	桂 子	
石 斎 杉 王	川 藤 浦	百 智 郁 冬	合 子	本 坂 西	山 戸 川	美 美 陽	人間環境学専攻 穂 穂 子	上 佐 早	杉 藤 潤	古 里 藤	賀 岡 原
			子 美 子			美 陽		智 友	子 の 乃		子 子
			梅					や 美			純 あい
								智 友			子

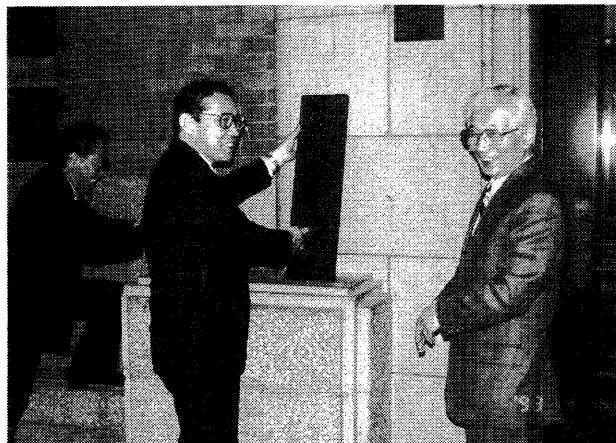
諸 報

○家政学部の廃止について

平成10年4月6日（月）に佐藤学長、小林生活科学部長（旧家政学部長）、橋本事務局長及び関係教官の立会いのもとに家政学部の看板が取り外されました。

家政学部は、昭和25年4月に設置されて平成10年3月までの48年間に4,348人の卒業生を送り出しました。

下の写真的家政学部の文字は、平成10年3月に逝去された故谷田学長の筆跡によるものであり、時を同じくして家政学部が廃止になったのは、なにかの縁なのかもしれません。



生活科学部本館玄関前にて



○附属図書館に自動入退館システムを導入

附属図書館2階に自動入退館システムが導入され、今年度より開架室の入室方法が変わりました。これに伴いカウンター前フロアを下図のとおり模様替えしました。

新システム導入準備のための部分閉館の際は大変ご不便をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

新しい入室方法は次のとおりです。なお、教職員の方は利用者カードがないと入室出来ませんので、ご注意ください。

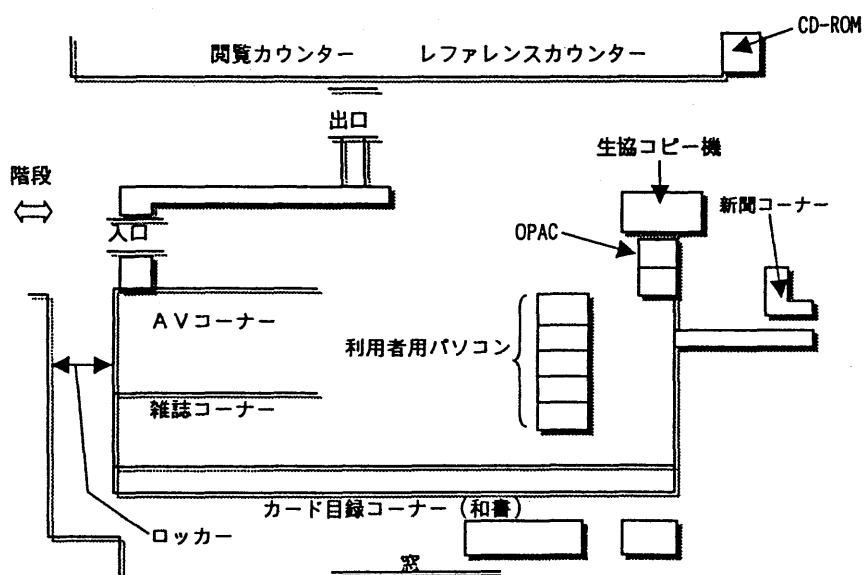
《入 室》

学生証または利用者カードのバーコードを入館ゲートの右上のセンサー窓にかざし、読み取らせるとバーが自動的に開きますのでお入りください。バーを無理に開けたり、逆進するとアラームが鳴ります。バーコードが読み取れず、バーが開かない場合はカウンターへ申し出て下さい。

* 借用中の図書の持ち込みは可能です。但し、返却の手続きを忘れないで下さい。

《退 室》

退館ゲートからバーを押して出ます。貸出手続きを済ませていない図書を持ってこのゲートを通過するとアラームが鳴り、バーがロックされます。その時は係員の指示に従って下さい。



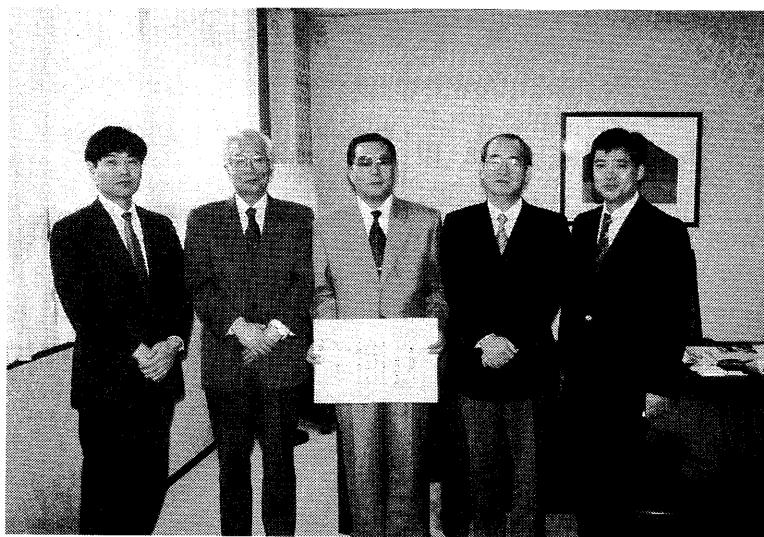
○永年勤続者表彰について

平成9年度退職時の永年勤続者表彰式が平成10年3月31日学長室で行われ、被表彰者に表彰状並びに記念品が授与されました。

被表彰者は次のとおりです。

お茶の水女子大学表彰

会計課 自動車運転手 岩坂和美



表彰される岩坂和美氏

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
人間文化研究科・助教授	出口 哲生	アメリカ合衆国 カナダ	文部省在外研究員 (理論物理学の研究)	10. 3. 1～ 11. 2. 28 (帰国予定)	外国出張
理学部・助教授	林 正男	アメリカ合衆国	バイオサイエンス研究動向の調査	10. 3. 2～ 10. 4. 7	外国出張
理学部・助手	大場 清	フランス共和国 連合王国	「無限解析と幾何」の研究	10. 3. 15～ 10. 3. 31	外国出張
理学部・助手	小島 京子	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学サンディエゴ校での研究打合せ及び情報交換	10. 3. 21～ 10. 4. 6	海外研修
理学部・助教授	小野 薫	連合王国	ウォーリック大学での研究集会への参加・講演	10. 3. 22～ 10. 4. 5 (10. 4. 1樹北道大学へ)	外国出張
理学部・助教授	吉田 裕亮	デンマーク王国 アメリカ合衆国	作用素環論の研究動向調査	10. 3. 23～ 10. 5. 22 (帰国予定)	外国出張
文教育学部・教授	長友 和彦	オーストラリア	モナシュ大学で客員教授としてセミナーを行う	10. 3. 29～ 10. 5. 14 (帰国予定)	外国出張
附属高等学校・教諭	高橋 通泰	オーストラリア	メソジスト・レディース・カレッジとE-mailによる交流の打合せ及びビクトリア州の日本語教育事情調査	10. 3. 29～ 10. 4. 6	海外研修
文教育学部・助教授	熊谷 圭知	オーストラリア	パプアニューギニアの干ばつ被害に対するオーストラリア政府の対応の調査及び意見交換	10. 4. 1～ 10. 4. 9	海外研修
生活科学部・教授	袖井 孝子	中華人民共和国	中国社会科学院の「家族、社会保障、社会福祉」に関する国際会議への出席・報告	10. 4. 2～ 10. 4. 7	海外研修
生活科学部・助教授	大塚 恵	中華人民共和国	「中国茶生理効果」に関する調査及び研究打合せ	10. 4. 26～ 10. 5. 2 (帰国予定)	海外研修
理学部・教授	平野 恒夫	アメリカ合衆国	「分子構造に関する第17回オースチン・シンポジューム」での研究発表及びハワイ大学、ハーバード・スミソニアンセンター等における研究討論	10. 2. 27～ 10. 3. 11 (期間変更)	外国出張

○健康診断

事項	実施日時	対象者	受診者数	実施場所
職員特別定期健康診断 (第2回)	平成10年 3月24日	自動車運転手	1人	保健管理センター

○レクリエーション行事

『職員麻雀大会』

去る、3月13日（金）、班主催による「職員麻雀大会」が開催され、参加した20名が熱戦を繰りひろげた。

なお、上位成績は、次のとおり。

優勝	小川 昭二郎
準優勝	橋本 幹夫
第3位	岩坂 和美

○訃 報

谷田 閎次 名誉教授

谷田 閎次氏は病気のため平成10年3月13日逝去されました。享年86才。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により正四位に叙されました。

生年月日 明治44年3月26日生

略歴 昭和8年3月 東京帝国大学文学部美学美術史学科卒業

昭和12年3月 同大学大学院修了

昭和14年10月 中華民国南京博物館研究員

昭和21年6月 財団法人大和文華館主事

昭和29年4月 京都市立美術大学教授

昭和31年4月 お茶の水女子大学教授

昭和46年2月 お茶の水女子大学学長～昭和51年2月

昭和51年5月 お茶の水女子大学名誉教授

昭和55年4月 群馬県立女子大学初代学長～昭和61年3月

平成10年3月 逝去

研究業績

7年にわたる中国南京博物館における調査研究と、その後の大和文華館創設時の研究は、美学の立場から工芸美術とくに東洋陶磁についての詳細な新見を示した業績として斯界に知られている。お茶の水女子大学家政学部被服学科に赴任後は、被服学の分野に人文科学の立場から「服飾美学」を創設し、その学問体系を示すことによって家政学・生活学の新しい途を拓いた。この分野は昭和46年に全国的な組織「服飾美学会」となり現在に至っており、長らくその代表委員を務めた。その他本学在任中は、評議員、家政学部長2期、附属図書館長2期、学長2期を歴任し、学外においても、大学設置審議会委員、国立大学協会の第2常置委員長などを務めた。

著書等

原始の美 每日新聞社 昭和31年（共著）

生活造形の美学 光生館 昭和35年

服飾美学・服飾意匠学 光生館 昭和44年（共著）

虚構の眞実 光生館 昭和51年

服飾の美意識 旺文社 昭和55年

その他著書、論文等多数

その他

昭和59年4月 勲二等瑞宝章叙勲

シャンタル 滝野 外国人教師

シャンタル 滝野氏は病気のため平成10年4月3日逝去されました。享年47才。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

生年月日 1950年8月23日生

略歴 昭和52年4月 お茶の水女子大学外国人教師（平成10年4月まで）

平成10年4月 逝去

日誌

◇諸会議

3月 3日 (火) 国際交流基金會議 (於: アークヒルズ)
 4日 (水) カリキュラム委員会
 6日 (金) 理学部拡大計画委員会
 部局長会議
 主任会議
 9日 (月) 教授会
 11日 (水) 博士後期課程運営委員会
 代議員会
 12日 (木) 公開講座委員会
 13日 (金) 生活環境研究センター運営委員会
 16日 (月) 廃棄物処理・再利用に関する検討委員会
 17日 (火) 生活科学部カリキュラム小委員会
 18日 (水) ジェンダー研究センター運営委員会
 主任会議
 19日 (木) 教授会
 学生委員会
 24日 (火) 部局長会議
 国際交流基金理事会
 25日 (水) 評議会
 27日 (金) 事務連絡協議会
 理学部拡大主任会議
 入学試験委員会
 生活科学部拡大主任会議
 文教育学部拡大主任会議
 4月 8日 (水) 代議員会
 人間文化研究科会議
 10日 (金) 部局長会議
 自己点検・評価検討委員会小委員会
 主任会議 (理)
 14日 (火) 主任会議 (生活)
 主任会議 (文教)
 15日 (水) 課長会議
 教授会
 20日 (月) ジェンダー研究センター運営委員会
 生活科学部カリキュラム小委員会
 教育実習専門委員会
 21日 (火) 学生委員会
 理学部 P R 委員会
 拡大部局長会議・部局長会議
 国際交流基金理事会
 入学者選抜方法研究委員会

22日 (水) 博士後期課程運営委員会
 代議員会
 評議会
 附属学校教育研究委員会
 入学試験委員会
 生活科学部情報委員会
 24日 (金) 文教育学部入試方法検討委員会
 事務連絡協議会
 27日 (月) 理学部入学者選抜方法研究委員会
 理学部臨時学科主任会議
 28日 (火) 自己点検・評価検討委員会小委員会
 30日 (木) S C S 事業運営委員会

◇行事等

3月 2日 (月) 大学院博士後期課程入試 (~4日)
 10日 (火) 桜蔭高等学校第50回卒業式 (於: 桜蔭学園)
 学部入学試験合格発表 (前期日程)
 12日 (木) 学部入学試験 (後期日程)
 大学院博士後期課程入学試験合格発表
 13日 (金) 学部入学手続 (前期日程)
 国立大学協会常務理事会 (於: 国立大学協会)
 附属幼稚園卒業式
 新入生セミナー説明会
 14日 (土) 学部入学手続 (前期日程)
 17日 (火) 附属中学校卒業式
 定 (停) 年退官者全学送別会
 18日 (水) 附属小学校卒業式
 19日 (木) 国立大学協会理事会 (於: 東海大学校友会館)
 20日 (金) 中長期の就職採用問題研究会 (於: 東海大学校友会館)
 附属高等学校卒業式
 学部入学試験合格発表 (後期日程)
 卒業証書・学位記授与式予行
 23日 (月) 卒業証書・学位記授与式
 24日 (火) 学位記 (論文博士) 授与式
 26日 (木) 大学院・学部 (後期日程) 入学手続 (~27日)
 31日 (火) 永年勤続者表彰式
 財) 大学セミナーハウス理事会・評議会 (於: アルカディア市ヶ谷)

離任式
4月1日（水）就任式
6日（月）「家政学部」看板取り下げ
8日（水）大蔵省会計事務職員研修（～7月10日）
附属高校、中学校、小学校入学式
9日（木）大学入学式
新入生オリエンテーション（～15日）
10日（金）附属幼稚園入園式
U M A P 先行国際事務局開設披露
(於：学士会館)
13日（月）新入生セミナー（理・生活）（～14日）
(於：大学セミナーハウス)
14日（火）官嬕関係要求学内ヒアリング
概算要求学内ヒアリング
15日（水）男女共同参画推進連携会議（於：日本学術会議講堂）
16日（木）前学期授業開始
概算要求学内ヒアリング
17日（金）概算要求学内ヒアリング
国立大学協会第3常置委員会（於：国大協会議室）
20日（月）文部省就職懇談会ガイダンス（於：東京大学）
23日（木）東京芸術大学奏楽堂竣工記念式典
(於：東京芸術大学)
関東甲信越地区国立学校等会計部課長会議（於：筑波大学）
24日（金）国立大学図書館協議会東京地区協議会総会（於：電気通信大学）
厚生補導関係文部省ヒアリング（於：国立教育会館）
東京地区大学入試センター試験担当課長会議（於：亞細亞大学）
27日（月）小石川消防署立ち入り検査（附属を除く）
28日（火）国立大学入学者選抜研究連絡協議会打合会（於：入試センター）
30日（木）東京女子大学創立80周年記念式典
(於：東京女子大学)
平成9年度決算報告会